



IEEE

IEEE関西支部

IEEE Kansai Section (Geographic code R00983)

2024 年 IEEE 関西支部

総会資料

2024 年 3 月 26 日

IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2024 年関西支部役員・理事	1
II.	2024 年 KANSAI CHAPTER 役員	6
III.	2024 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	9
IV.	2023 年 活動報告 および 2024 年活動計画	11
V.	関西支部会員数	55
VI.	2023 年 会計報告	57
VII.	2024 年 予算	59
VIII.	受賞者	61
	参考情報	63



“2021 REGION 10 BEST MEMBERSHIP RETENTION LARGE SECTION AWARD”
Plaque



“2023 REGION 10 PRESENTED KANSAI SECTION 25TH ANNIVERSARY FLAG”

2024 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2024 年 3 月 26 日(火) 14 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所: 大阪倶楽部 ホール
〒541-0042 大阪府中央区今橋 4 丁目 4 番 11 号
3. 総会スケジュール
 1. 開会の挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2023 年活動報告および 2024 年活動計画
 4. 2023 年会計報告および 2024 年予算案
<休憩>
 5. Chapter 役員紹介および活動紹介
<休憩>
 6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE Japan Council メダル授賞式(新 Senior Members)
 9. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介
 10. 閉会の挨拶

I. 2024年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Vice Chair:	井上 哲也	(住友電気工業)
Secretary/ Treasurer:	向井 英之	(住友電気工業)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
NC Chair:	村田 忠彦	(大阪大学)
SAC Chair:	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
TPC Chair:	石田 昌宏	パナソニック
AC Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
COC Chair:	太田 能	(神戸大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	櫛木 好明	(元パナソニック)
WIE AG Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
YP AG Chair:	二社谷 一樹	(大阪大学)

4. 理事 (Activities Chair)

EA Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
-----------	-------	---------

5. 理事 (Past Officer)

Past Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
-------------	-----	----------

6. 理事 (Past Committee Chairs)

Past MDC Chair	佐藤 高史	(京都大学)
Past SAC Chair	福水 洋平	(立命館大学)
Past TPC Chair	上田 哲三	(パナソニック)
Past AC Chair	伊野 文彦	(大阪大学)
Past COC Chair	戸出 英樹	(大阪公立大学)

7. (Observer)

Next Vice Chair	高林 幹夫	三菱電機
Next Secretary	平松 星紀	三菱電機

8. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	藤本 大介	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	奥田 武夫	(オムロン)
	廣瀬 裕	(パナソニック)
	澤田 宏	(日本電信電話)
	佐々木 正人	(シャープ)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	東 俊一	(京都大学)
	椋木 康滋	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪公立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	石野 祥太朗	(古野電気)
八木 直美	(兵庫県立大学)	

b. Nominations Committee

Chair:	村田 忠彦	(大阪大学)
Member:	田畑 修	(京都先端科学大学)
	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)

c. Student Activities Committee

Chair:	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)	
Member:	木村 達明	(大阪大学)	
	白井 僚	(京都大学)	
	和泉 慎太郎	(神戸大学)	
	加藤 恒夫	(同志社大学)	
	福水 洋平	(立命館大学)	
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)	
	宝田 隼	(関西大学)	
	飯間 等	(京都工芸繊維大学)	
	北川 冬弥	(パナソニック)	
	(Student Representative)	豊岡 祥太	(関西大学)

d. Technical Program Committee

Chair:	石田 昌宏	(パナソニック)
Vice Chair:	田中 雄一	(大阪大学)
Secretary:	金馬 慶明	(パナソニック)

e. Awards Committee

Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	久保田 寛和	(大阪公立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	白石 善明	(神戸大学)
	新谷 道広	(京都工芸繊維大学)
	杉原 英治	(関西学院大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	辻岡 哲夫	(大阪公立大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	林 和則	(京都大学)
	東森 充	(大阪大学)
	水谷 圭一	(京都大学)
	元井 直樹	(神戸大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	太田 能	(神戸大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	木村 睦	(龍谷大学)
	橋本 隆	(パナソニック)
	井上 馨	(同志社大学)
	岩井 誠人	(同志社大学)
	熊本 和夫	(大阪工業大学)
	河村 岳	(パナソニック)
	檜橋 祥一	(摂南大学)
	戸田 裕之	(同志社大学)
	西浦 敬信	(立命館大学)
	西村 良太	(徳島大学)
	藤本 健治	(京都大学)
	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
	舟木 剛	(大阪大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	櫛木 好明	(元 パナソニック)
Vice Chair:	千葉 徹	(元 シャープ)
Vice Chair:	有木 康雄	(神戸大学)
Secretary	大島 一能	(大阪工業大学)
Secretary:	平野 和夫	(元 住友電気工業)
Secretary:	安田 清和	(大阪大学)
Past Chair:	小林 正明	(元 三菱電機)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
Vice Chair:	松川 真美	(同志社大学)
Vice Chair:	岩元 美由紀	(京都大学)
Secretary:	エバンズ 直子	(TOA・大阪大学)
Treasurer:	蔭山 享佑	(近畿大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	二社谷 一樹	(大阪大学)
Vice Chair:	豊岡 祥太	(関西大学)
Secretary/Treasurer:	井上 昂治	(京都大学)
Member:	青木 信雄	(広島市立大学)
	伊原 彰紀	(和歌山大学)
	岩居 健太	(立命館大学)
	北川 冬弥	(パナソニックホールディングス)
	佐藤 丈博	(京都大学)
	塩見 準	(大阪大学)
	中島 優作	(総合研究大学院大学)

j. EA (Educational Activities)

Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
Vice Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)

II. 2024 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	木村 睦	(龍谷大学)
Vice Chair:	中原 健	(ローム)
Secretary:	松田 時宜	(近畿大学)
Treasurer:	奥 良彰	(ローム)

2. SSCS (Solid-State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	橋本 隆	(パナソニック)
Vice Chair:	川口 博	(神戸大学)
Secretary:	兼本 大輔	(大阪大学)
Treasurer:	中田 洋平	(パナソニック)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	井上 馨	(同志社大学)
Vice Chair:	橋本 昌宜	(京都大学)
Secretary:	塩見 準	(大阪大学)
Treasurer:	南 政孝	(神戸市立工業高等専門学校)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	岩井 誠人	(同志社大学)
Vice Chair:	塩見 英久	(大阪大学)
Vice Chair:	西 正博	(広島市立大学)
Secretary:	吉田 賢史	(龍谷大学)
Treasurer:	西田 翼	(株式会社 村田製作所)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Vice Chair:	和田 友孝	(関西大学)
Secretary:	江 易翰	(大阪公立大学)
Treasurer:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	河村 岳	(パナソニック)
Vice Chair:	吉川 智哉	(三菱電機)
Vice Chair:	吉田 則裕	(立命館大学)
Secretary:	石川 和史	(パナソニック)
Treasurer:	張 任遠	(奈良先端科学技術大学院大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	檜橋 祥一	(摂南大学)
Vice Chair:	河合 正	(兵庫県立大学)
Secretary:	本田 慧	(三菱電機)
Secretary:	石川 峻樹	(オリエントマイクロウェーブ)
Treasurer:	野坂 秀之	(立命館大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	戸田 裕之	(同志社大学)
Vice Chair:	高橋 和	(大阪公立大学)
Secretary:	三科 健	(大阪大学)
Treasurer:	竹村 亮太	(三菱電機)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Vice Chair:	滝口 哲也	(神戸大学)
Secretary:	井本 桂右	(同志社大学)
Treasurer:	俵 直弘	(NTT)

10. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	西村 良太	(徳島大学)
Vice Chair:	Thi Thi Zin	(宮崎大学)
Secretary:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	藤本 健治	(京都大学)
Vice Chair:	高井 重昌	(大阪大学)
Secretary:	佐藤 訓志	(大阪大学)
Treasurer:	橋本 和宗	(大阪大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
Vice Chair:	川上 太知	(大阪公立大学工業高等専門学校)
Secretary:	石原 將貴	(岡山大学)
Treasurer:	又吉 秀仁	(大阪工業大学)

13. MAGS (Magnetics Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
Vice Chair:	岡本 好弘	(愛媛大学)
Secretary:	藤枝 俊	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪公立大学)

14. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

Chair:	舟木 剛	(大阪大学)
Vice Chair:	佐々木 宏	(スタンダードズ研究所)
Vice Chair:	濱口 慶一	(株式会社コスモス・コーポレーション)
Secretary:	永沼 良太	(株式会社コスモス・コーポレーション)
Treasurer:	山口 哲矢	(株式会社コスモス・コーポレーション)

III. 2024 年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	滝井 京湖	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	加治屋 彰太	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	佐々木 桂太	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	佐々木 蓮	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	白井 僚	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	村瀬 秀太	情報学研究科
Vice Chair:	小池 健文	情報学研究科
Treasurer:	北池 弘明	情報学研究科
Secretary:	名執 凌磨	情報学研究科

3. 立命館大学 (<https://sites.google.com/site/ieeeritsumeikansb/home>)

Counselor:	孟 林	(立命館大学 准教授)
Chair:	福坂 陽	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	田中 大雅	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	吉津 侑哉	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	東昂 巳	理工学研究科 電子システム専攻

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	Yohanssen Pramata	先端科学技術研究科
Vice Chair:	Ndalama Festus Edward	先端科学技術研究科
Treasurer:	Valerie Megan	先端科学技術研究科
Secretary:	Indira Febriyanti	先端科学技術研究科
Webmaster:	Sergio De Leon Aguilar	先端科学技術研究科

5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	磯川 悌次郎	(兵庫県立大学 工学研究科 電子情報工学専攻)
Mentor:	柳川 由紀子	(オムロン株式会社)
Chair:	澤 風吹	工学研究科/電子情報工学専攻
Vice Chair:	中瀬 大輝	工学研究科/電子情報工学専攻
Treasurer:	小林 壯哉	工学研究科/電子情報工学専攻
Secretary:	小林 壯哉	工学研究科/電子情報工学専攻

6. 関西大学 (http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	梶川 嘉延	(関西大学 教授)
Chair:	梅宮 悠輔	理工学研究科システム理工学専攻
Vice Chair:	中野 壮太	理工学研究科システム理工学専攻
Treasurer:	金子 聖弥	理工学研究科システム理工学専攻
Secretary:	楠 颯真	理工学研究科システム理工学専攻

7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	大崎 美穂	(同志社大学 教授)
Chair:	大園 健史	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Vice Chair:	高城 光汰	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Treasurer:	藤澤 璃子	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Secretary:	朴 洗薇	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻

IV. 2023 年 活動報告 および 2024 年活動計画

1. 総括

【2023 年活動報告】

2023 年 9 月 2 日(土)に大阪倶楽部(淀屋橋)に於いて対面および Zoom によるオンラインのハイブリッド形式で関西支部設立 25 周年を記念して、記念講演会と祝賀会を開催した。講演会には、歴代の Chair の方を含め 56 名、祝賀会にも 48 名もの方にご参加いただけ盛会に実施することが出来た。

LMAG、WIE、YP の各 Affinity Group の活動では、コロナも明け、第 22 回 IEEE 関西支部 LMAG 技術講演会「日本が獲得した IEEE Milestones」を開催、第 23 回 IEEE 関西支部 LMAG 現地講演会「都市デジタル技術は防災減災をどう進化させるか」を阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」で開催、10 回目となる恒例イベント「WIE シンポジウム」を開催するとともに、MAW2023、Japan SYWL Workshop、SBLTW への現地参加者派遣により、他支部との交流を深めた。

支部主催の各種イベントは MDC や TPC 主催の技術講演会等、総会、支部理事会、EA イベント「英語で学ぶ先端技術」、YP イベント「第5回博士課程のキャリアを語る会」「IEEE Kansai Section SB-YP Joint Event in 2023」等を集合とオンラインのハイブリッド開催を継続して実施し、また、「Overleaf 勉強会」を名古屋で主催するとともに「The 3rd Hokkaido Young Professionals Workshop」を北海道で共催して、活動の全国規模化や学生参加者の拡大による充実に努めた。

【2024 年活動計画】

2024 年も、TPC 主催の技術講演会を始め各 Committee、Affinity Group 主催の既存イベントについては、集合とオンラインのハイブリッド開催、あるいは集合開催のみとするなど、各種イベントの性格に応じて多様かつ臨機応変な開催形態の取組を定着させるとともに、支部活動のより一層の活性化と会員増につながる新規イベントの導入も継続検討したい。

そのため、支部理事会・事務局として、Chapter 活動、Student Branch 活動、Affinity Group 活動に対して、より一層、積極的な支援をおこなう。

2. 総会

【2023 年活動報告】

2023 年 3 月 2 日(木)に住友ビルディング(淀屋橋)に於いて対面および Zoom によるオンラインのハイブリッド形式で年次総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2022 年の活動実績、2023 年の活動計画を報告。関西支部より 2022 年決算、2023 年予算を報告し承認された。総会中、Young Professionals 賞、学生研究奨励賞授賞式、新シニア会員への関西支部メダル授与式、新 Fellow の紹介・講演会を実施した。参加者は、対面 41 名、オンライン 28 名の計 69 名であった。



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル授与式（新 Senior Members）

【2024 年活動計画】

2024 年は 3 月 26 日（火）14:00～17:30 の予定で、定例総会を実施する。

3. 理事会

【2023 年活動報告】

2023 年は 6 回の理事会を開催し、折々の支部運営について審議した。新型コロナウイルス感染症の影響は小さくはなったものの、集合およびオンラインのハイブリッド開催（12 月の第 6 回は予定）とした。理事会議論においては、特に支部および支部内組織（Committee、AG 等）が主催・共催するイベントの活性化に取り組み、今年は特に関西支部設立 25 周年ということで記念イベントの企画にも注力した。

第 1 回理事会 1 月 19 日(木)、住友ビル 12 階中会議室、および

Zoom によるオンライン開催(参加 17 名)

2023 年活動・予算計画の確認、関西支部総会準備、25 周年記念イベント企画案

第 2 回理事会 2 月 22 日(火)、住友ビル 11 階大会議室、および

Zoom によるオンライン開催(参加 17 名)

関西支部総会準備(段取り、資料の最終確認)、25 周年イベント企画案

第 3 回理事会 5 月 31 日(水)、住友ビル 12 階中会議室、および

Zoom によるオンライン開催(参加 20 名)

R10 ミーティング報告

第 1 回 JC 理事会報告

2023 年 Young Professionals 賞、学生研究奨励賞の募集について

25 周年イベント企画案、各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第 4 回理事会 7 月 4 日(火)、住友ビル 12 階中会議室、および

Zoom によるオンライン開催(参加 18 名)

IEEE のルール補足説明

25 周年イベント企画準備状況最終確認

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第 5 回理事会 10 月 3 日(火)、住友ビル 12 階中会議室、および

Zoom によるオンライン開催(参加 18 名)

次期幹事会社依頼状況

Newsletter No.44 配信案

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第 6 回理事会 12 月 19 日(水)、大阪倶楽部中会議室、および

Zoom オンラインによるハイブリッド開催(予定)

2023 年会計報告／2024 年予算計画

2023 年各種表彰者(YP 賞、学生研究奨励賞、新シニアメンバー)

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

【2024 年活動計画】

2024 年は年間 6 回の理事会を計画する。

4. 関西支部主催講演会

【2023 年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)の企画により、主催・共催含め年間 7 回の技術講演会を開催した。詳細については TPC の活動報告に記載。

【2024 年活動計画】

2024 年は年間 5 回程度の講演会(見学会を含む)の開催を予定し、支部活性化を図る。

5. Region 10 Meeting

【2023 年活動報告】

2023 年 3 月 4 日(土)～5 日(日)にベトナム・ホーチミンの Lotte Hotel Saigon でハイブリッド開催された Region 10 Meeting に、関西支部より梶川 Chair(現地)、井上 Vice Chair(リモート)が参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。また、会場で R10 より 25 周年記念フラッグが授与された。

【2024 年活動計画】

日程: 2024 年 3 月 2 日(土), 3 日(日)

場所: Kuala Lumpur, Malaysia

関西支部より梶川 Chair と井上 Vice Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画等の情報入手と交換、支部メンバーへの共有に努める。

6. MAW / Japan SYWL Workshop / SBLTW

【2023 年活動報告】

2023 年 11 月 24・25 日に信州大学で開催された、Japan SYWL2023、MAW2023 および付帯イベントに、関西支部より AG メンバー 4 名、学生メンバー 1 名、計 5 名を派遣した。

【2024 年活動計画】

2024 年も、継続して活動活性化を図るため、Student Branch/YP/WIE/LMAG について上位組織で開催される本イベント活動への参加を積極的に支援する。

7. 協賛会議等

【2023 年活動報告】

- ・第10回 電子デバイスフォーラム京都
～アフターコロナ新時代の半導体 電子部品の飛躍戦略を探る～
主催: 一般社団法人日本電子デバイス産業協会(NEDIA)
日時: 2023 年 10 月 23 日(月) - 24 日(火)
場所: 京都リサーチパーク(KRP)
- ・12th IEEE CPMT Symposium Japan (ICSJ2023)
主催: IEEE EPS
日時: 2023 年 11 月 15 日(水) - 17 日(金)
場所: 立命館大学朱雀キャンパス
- ・2023 年 電気関係学会関西連合大会
主催: 電気学会 関西支部
電子情報通信学会 関西支部
映像情報メディア学会 関西支部
日時: 2023 年 11 月 25 日(土) - 26 日(日)
場所: 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

8. 情報発信

【2023 年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会や AG による活性化イベントの案内等を情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

R10 Newsletter

LMAG を中心に R10 Newsletter への投稿を進めた。

【2024 年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページでは、引き続き各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter のタイムリーな発信に努める。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く告知し情報発信に力を入れる。

オンライン開催イベントは、関西支部会員に限らず、本全国の会員を対象に広く周知を図る。

R10 Newsletter

R10 Newsletter への投稿をさらに積極的に進め、関西支部活動について R10 内への英語による周知を図る。

【関西支部 Newsletter の発行】

No.43(2023 年 4 月 12 日発行): 総会の様子、YP 賞・学生研究奨励賞の受賞者紹介、新 Senior メンバー・新 Fellow の紹介、技術講演会等の開催情報を掲載。

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/news/no43.html>

No.44(2023 年 10 月 6 日発行): 25 周年記念講演会、YP 賞、学生研究奨励賞募集のお知らせ、技術講演会、WIE シンポジウム、博士課程のキャリアを語る会の開催情報を掲載。

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/news/no44.html>

2024 年も 2 回 (No.45:2024 年 4 月、No.46:2024 年 10 月) の発行を予定している。

9. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

【2023 年活動報告】

- ・ 2023年は、第1回を5月8日、第2回を11月6日に、MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。昨年はオンライン開催も交えたが今年は2回ともに、大阪ガーデンパレスにて対面で実施した。MDC、SAC、YP に参加している各委員の組織等を通じて IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズにするとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。
- ・ 通常会員の会員数の減少を食い止めるため、Renew のし忘れを防ぐことを目的に、5月と1月に Renew 案内メールを送信して更新を促した。また、シニアメンバーへの昇格申請がスムーズとなるよう申請のための支援を継続し、その結果 2023 年度のシニアメンバー昇格者が 17 名となった。
- ・ 2023 年 12 月 31 日時点での会員数は 2,218 名であり、2022 年度を大きく上回り、全体としてコロナ以前の数値に近づいている。特にシニアメンバーと学生会員の増加が目覚ましい。
- ・ 6月7日に MDC 主催で IEEE Digital Privacy Initiative Chair による Digital Privacy に関する IEEE の考え方に関する特別講演を行った。53 名の聴講者が参加し盛況であった。うち 29 名は IEEE 非会員であり、IEEE の紹介の面でも有用であった。
- ・ 12月18日には LMAG、TPC との共催で技術講演会を行った。講演内容は、「電磁波と情報セキュリティ」についてであり、MDC としてはメンバー確保に向けて現地型のハンズオン演習を講演会の後に行い、より深い理解を得られるイベントを提供した。講演会には 34 名、演習には 12 名参加した。



左図：IEEE Digital Privacy Initiative Chair による特別講演（6/7）



右図：LMAG、TPC との共催で技術講演会におけるハンズオン演習の様子（12/8）

- ・ 11月12日に開催されたIEEE関西YPが主催する「博士課程のキャリアについて語る会」に協賛し、学生会員のIEEEへの入会を勧める講演を行った。昨年につき、9月30日に、IEEE関西YP、SACと共同で合同イベントを開催し、MDCに所属するメンバーの企業（京セラ、シャープ、日本電信電話、パナソニック、古野電気、三菱電機）より、仕事内容や、仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表することで、社会人と学生の相互理解を深めた。これらのイベントを通じて、IEEEパンフレットやノベルティグッズを配布し、IEEEメンバーへの勧誘とシニアメンバー昇格への案内を行った。

【2024年活動計画】

2024年も継続して、会員増に向けた活動を行う。これまでと同様にMDC/SAC/YPと連携しながら、特にSenior memberと学生を中心とする若手の新規会員の増加に向けた活動を行う。

- ・ MDC/SAC/YP Joint Workshopを年2回(5月頃、11月頃)開催し、Committee間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ・ アップグレードの勧誘と申請サポートとを通して、シニアメンバーの一層の増加を目指す。IEEE Computer Society Kansai Chapterの取り組みをJC MD会議等を通じて他Committee、Chapterに展開し、昇格者増加の道筋を作る。
- ・ 学会や研究会における広報活動(IEEEのポスターやパンフレットの配布等)により、IEEEへの入会勧誘を行う。しかし、オンライン開催によりこれが困難である場合は、ポスター・パンフレットをMDC役員の所属機関に配布することで広報活動を実施する。
- ・ 年2回のRenew促進のメールを送信してRenew忘れによる会員減を防止する。

b. Nominations Committee

【2023年活動報告】

2023年3月1日締め切りの2023年Fellow Nominationに際し、関西支部から数名のFellow推薦を行なった。その結果、2名のFellow昇格となった。

2023年12月25日、関西大学梅田キャンパスにおいて、「IEEE関西支部Fellow Club創設記念イベント」を実施した。17名の参加であった。

【2024年活動計画】

2024年は、2024年2月7日締め切りの2024年Fellow Nominationに関して、関西支部内の現Fellowに対し新Fellowの推薦を依頼するとともに、現Seniorに対してもNomineeとなることを勧める。また、「IEEE関西支部Fellow Club」の枠組みのもと、現Fellowから積極的に推薦できる枠組みを構築する。更に、IEEEメンバー資格昇格のための勉強会・講演会を実施する。

c. Student Activities Committee

【2023 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き学生会員の増強、学生会員の活動支援等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDC と SAC、YP と合同で Workshop をオンラインで開催(5 月, 11 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 Student Branch の Chair により Student Branch Chair Meeting を大阪大学にて開催した(3 月 13 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。YP より二社谷様に来ていただき、YP との共同開催企画についても議論を行った。
- (4) SB 研究交流会を YP と共催で 9 月 30 日に大阪工業大学にて開催した。当日は 11 名の参加者の参加者があり、互いの研究内容について研究発表形式で行い発表を行い、議論を行った。あわせて同日、同会場で YP および MDC と共催で社会人と学生の交流会を行った。
- (5) SB 全体のイベントとして、LMAG および YP と共催で English Presentation Competition を 12 月 1 日に立命館大学びわこくさつキャンパスにて開催した。
- (6) SB と LMAG との共同企画として計画しているブレインストーミング大会は、コロナで不開催が続き、その間に企画方法の引き継ぎが失われ、本年も開催できなかった。今後、企画の刷新を含めて新しい企画として立て直すなど工夫が必要と考える。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。
- (8) 12 月 22 日に京都大学の主催で、年末交流会(引継ぎ会)を実施し、各 SB の活動状況の報告および次年度の活動計画について議論した。

【2024 年活動計画】

(1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。さらに、各企画の学生会員増への貢献度を精査する必要がある。

(3) 表彰および研究奨励

2004年から開始したIEEE関西支部学生研究奨励賞を(ACと共同により)継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の8支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

【2023年活動報告】

2023年は、主催・共催を含め、以下の表に示す計7回の技術講演会を実施した。

	開催日	実施形態	講演者	参加者数 (IEEE会員)	主催・共催組織名
第118回	2023年 6月7日	テーマ: Who is making the decisions about our Digital Privacy?			
		オンライン	Mr. Christopher Gorog (Chair IEEE Digital Privacy Initiative)	53 (24)	MDC 主催 (MDC 特別講演) TPC 共催
第119回	2023年 6月29日	テーマ: なぜ我々はオープンソース LLM「Dolly」を開発したのか			
		オンライン	弥生 隆明 氏 (データブリックス・ジャパン株式会社)	59 (43)	TPC 主催
第120回	2023年 6月28日	テーマ: フェーズドアレイレーダを活用した線状降水帯等の早期予測技術の現状と将来			
		対面	牛尾 知雄 教授 (大阪大学 大学院工学研究科)	23 (19)	LMAG 主催 (第21回現地講演会) TPC 共催
第121回	2023年 8月30日	テーマ: 経営学部でのデータサイエンス教育の実践による学び			
		対面・オンライン	保科 架風 准教授 (青山学院大学 経営学部 経営学科)	33 (19)	TPC 主催 滋賀大学データサイエンス学部 共催
第122回	2023年 11月10日	見学: 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」 テーマ: DX(多分野のデータ統合)「都市丸ごとデジタル化」 — 都市デジタル技術は防災減災をどう進化させるか —			
		対面	飯塚 敦 教授 (神戸大学都市安全研究センター)	25 (16)	LMAG 主催 (第23回現地講演会) TPC 共催
第	2023年	テーマ: SiC パワーデバイス ～カーボンニュートラル実現への新展開～			

123 回	12月7日	対面・ オンライン	松波 弘之 教授 (京都大学 名誉教授 / 京 都先端科学大学 特任教 授)	213 (87)	(第1回シンギュ ラリティ技術講演 会) LMAG 主催 TPC 共催 (第24回技術講演 会)	
第 124 回	2023年 12月18日	テーマ:「電磁波と情報セキュリティ」ー不要放射はどのように情報機器のセ キュリティを低下させるのか?ー			34 (30)	LMAG 主催 (第25回現地講演 会) MDC 主催 (第1回体験型現 地講演会) TPC 共催
		対面・ オンライン	林 優一 教授 (奈良先端科学技術大学院 大学)			

新型コロナの5類移行を受け、一部の講演会について対面での開催が復活した。各講演会では、関西支部ホームページによる告知に加え、毎回、IEEE Japan Chapter を通じたメール案内により、他支部からもご参加いただき、アクティビティを高めた。

第119回講演会では、データブリックス・ジャパン(株)の弥生氏を招き、オープンソースの大規模言語モデルの開発について講演をいただいた。ChatGPTをはじめとする生成AIが注目を浴びている時期でもあり、多数の参加者を得た。第121回講演会では、青山学院大学の保科先生に文系の学生にデータサイエンスを教えるノウハウについて講演いただいた。データサイエンスは文科省が特に力を入れている教育分野であって、文系の学生への裾野の拡大が求められているという状況で興味深い講演となった。第123回講演会は、京都大学名誉教授の松波先生に登壇いただいた。松波先生がこの度 IEEE Edison Medal をご受賞されたことを支部として讃える意味もあり、受賞理由である松波先生の先駆的な SiC に関する研究開発の内容とその応用についてご講演を頂いた。

【2024年活動計画】

2024年も引き続き、技術講演会の開催を主たる活動とする。オンラインあるいは対面併用のハイブリッド形式で、年5回程度の講演会を企画・開催することを目指す。加えて、IEEE会員の知見・視野拡大につながるセミナー等のIEEE協賛支援も進める予定である。

上記の活動においては、特定のChapterに属さないような横断的分野、あるいはグローバル化に対応した市場・技術の方向性に関する内容の講演会を、積極的に企画・開催する。

e. Awards Committee

【2023年活動報告】

昨年に引き続き、学生会員ならびに若手会員を対象として、「IEEE関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。本年度は、6月1日に募集を開始し、10月6日に応募を締め切った。その後、応募者の支援資料を10月27日までに受理し、当委員会による選定の後、12月19日の支部理事会において「学生会員」部門、「大学や研究所の若手会員」部門、お

よび「企業の若手会員」部門でそれぞれ1名ずつの受賞者を決定した。

また、「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、これまでと同様に継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。Young

Professionals 賞と同様に、6月1日に募集を開始し、10月6日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12月19日の支部理事会において10名の受賞者を決定した。

【2024年活動計画】

2024年は、従来からの厳正な選考過程の実践を継続するとともに、これまで以上に応募者の増加に努める。「IEEE 関西支部 Young

Professionals 賞」ならびに「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」を、それぞれ若手会員と学生会員の増強施策として位置づけ、関西支部が関与する種々の研究集会ならびにメーリングリストにおいて、賞の存在をより積極的に周知する。YP 賞に関しては、2023年度は前年度に比べて大幅に応募数が増えたが、その多くは「大学や研究所の若手会員」部門だった。そのため、「学生会員」部門の応募数を増やすために SAC とも協調し、Student

Branch での活動等 IEEE への貢献が顕著な学生会員に応募を摂食的に呼びかける。また、「企業の若手会員」部門への応募数を増やすために、企業の若手会員に同賞への応募を積極的に呼びかける。

f. Chapter Operations Committee

【2023年活動報告】

2023年は、JC COC からの依頼に応じて Technical Co-Sponsorship (TCS)、Financial Co-Sponsorship (FCS) の審議を行うとともに、関西支部理事会において JC COC ミーティング報告を行い、各 Chapter との情報共有に努めた。特に、JC COC において継続検討中の Chapter 支援費申請審議業務の Section 配下への移行など、JC の運用制度の改訂に関する動向を把握するとともに、各 Chapter に対し、それぞれのホームページの積極更新を促進するよう努めた。

【2024年活動計画】

2024年も引き続き、JC COC と連携のうえ、Japan Council の運用制度の改訂に関する動向を把握し、各 Chapter との情報共有を綿密に行うとともに、関西支部内の各 Chapter 活動の活性化に努める。特に、2024年1月より JC COC から Tokyo Section COC に移管される Chapter 支援費申請審査業務の移行状況をフォローし、将来のその他 Section への本格移行に備える。また、引き続き、各 Chapter に対し、それぞれのホームページの積極更新を促進する。

g. Life Members Affinity Group

【2023年活動報告】

活動11年目として LMAG 活動をいっそう活性化させるべく、COVID-19 の5類移行を受けて年後半から対面形態の活動を再開した。役員会、新 LM 歓迎懇親会は主にオン

ライン形態で、現地講演会・見学会、講演会は主にハイブリッド形態で開催した。年末には新技術の特異点が引き起こす広義の社会変革に着目した第1回シンギュラリティ技術講演会を開催した。

役員会はオンラインで9回開催した。特にハイブリッド会議運営のIT化に文書テンプレートを整備しながら打ち合わせを重ねた。12/24（日）には、年度末オンライン役員会を開催し、2023年の活動振り返りと2024年の活動計画につき審議した。

新LM歓迎懇親会は3/24（金）にオンライン開催し、新しくLMになられた21名の内6名の方々との親交を深めた。



2023関西LMAG新人歓迎会



大阪大学フェイズドアレイレーダー

講演会としては、以下5件を開催した。

・6月28日(水)に、関西支部TPCとの共同主催で、大阪大学（吹田キャンパス）にて、「フェーズドアレイレーダを活用した線状降水帯等の早期予測技術の現状と将来」をテーマとして、大阪大学 大学院工学研究科（気象センシング）牛尾知雄教授に講演いただいた。久しぶりの現地講演会であった。施設見学では屋上の気象レーダ本体へ案内いただいた。もの凄い土砂降り豪雨、時折雷鳴も聞こえる中 気象レーダ活躍の「絶好のコンディション」となり、データ解析画面でも雨雲発達状況がクッキリと浮かび上がり、まさに手に取るようにわかる機会を得た。

本年の特別な意義を持つ技術講演会として、LMAG 関西 10 周年記念講演の白川先生、Edison Medal 受賞記念とシンギュラリティ基調講演の松波先生、をお願いした。お二人に、感謝と祝意を込めて、JC Chair はじめ関係 Chair 4 者署名の感謝状を贈呈した。

・9月14日(木)に、関西支部との共同主催で、大阪工業大学（梅田キャンパス）にて、「日本が獲得した「マイルストーン」～社会を変えた技術 歴史を知って、未来へ挑戦～」をテーマとして、白川 功 大阪大学名誉教授に講演いただいた。実施形態は現地とオンラインのハイブリッドで、合計92名の参加者があった。その時代のベストプラクティスであるIEEEマイルストーンの歴史的技術業績と認定までの内容・背景に

ついて、技術史としても意義深く、興味深い背景などを、具体的な事例で紹介された。

12月7日(木)に、関西支部、TPC との共同主催で、大阪工業大学（梅田キャンパス）



9月14日関西LMAG10周年記念IEEEマイルストーン講演会 白川先生への感謝状贈呈

にて、「SiC パワーデバイス ～カーボンニュートラル実現への新展開～」をテーマとして、IEEE Edison Medal を受賞された松波弘之 京都大学名誉教授に第1回シンギュラリティ技術講演会として基調講演していただいた。実施形態は現地とオンラインのハイブリッドで213名の参加があり、大変感銘を受けたとのコメントが多く大盛況だった。



12月7日Edison Medal 受賞記念 SiC新応用技術講演会 松波先生への感謝状贈呈

・11月10日(金)に、LMAG 関西主催で、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターと(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構において、「DX(多分野のデータ統合)「都市丸ごとデジタル化」— 都市デジタル技術は防災減災をどう進化させるか—」をテーマとして、神戸大学都市安全研究センター/工学研究科市民工学専攻 飯塚 敦教授に講演いただいた。現地講演会ならではの「人と防災未来センター」見学であらためて防災意識を高めることとなった。

・12月18日(月)に、MDC との共同主催で、奈良先端科学技術大学院大学において、「電磁波と情報セキュリティ ～ 不要放射はどのように情報機器のセキュリティを低下させるのか～」をテーマとして、奈良先端科学技術大学院大学(情報セキュリティ工学研究室) 林 優一 教授に講演いただいた。初めての「体験実習」電磁波セキュリティ ハンズオン ～ 漏えい電磁波からディスプレイの表示データを再現する体験実習～も実施した、これもまた現地講演会ならではの内容であった。



人と防災未来センター1F神戸市マップ



電磁波セキュリティ体験型講演会

一方、8/19（土）の関西支部主催第3回 EA（Educational Activities）イベントに参加した。9/2にはIEEE関西支部25周年記念講演会が開催され、LMAG関西からも多数が出席した。

他組織との連携として、SBとの連携では、12/1（金）に開催されたSB英語プレゼンテーション大会を支援し、この大会の優秀賞の一つとして設けている「LMAG Kansai 賞」（賞金カード付き）を該当者1名に授与した。同大会には、LMAG関西から審査員として参加した。WIEとの連携では、10/21（土）に開催されたWIEシンポジウムに、LMAG関西も共催した。SB/YPとの連携では、9/30（土）開催のジョイントイベント、11/12（日）開催のYPコンファレンスにLMAG関西も共催し、それぞれに参加した。

LMAG Kansai Newsletterについては、英語が公用語の学会としてLMAG関西の活動をアジア（R10）や世界に情報発信していくため、2018年から英語版にて発行を続けており、今年も12月に発行した。

LMAG関西のWebページについては2023年活動の掲載内容を更新した。

【2024年活動計画】

LMAGメンバの深い専門知識、豊富な経験に基づく分野にまたがる発想力など「**多様性を生かす**」をスローガンに、従来同様に活発な活動を継続していきたい。「**シンギュラリティ**」をキーワードにJC、関西支部、TPCなどと連携して数回の講演会（現地講演会も含む）も計画する。LMの方々による技術懇話会の活動をさらに発展させていくことも重要な目標である。オンライン形態を活用して他支部LMAGとの地域の制約を超えた連携を図りつつ、広い地域の参加者を募るとともに、より広範なテーマに取り組む活動を目指したい。SBやYP、WIE、他支部LMAGとの連携も積極的に進める。具体的には、連携先の諸活動へのLMAGメンバの豊かな経験を活かした参加やその共同開催、逆にLMAG活動への連携先からの参加など、幅広い視点から双方向の交流と連携を深める。これらの活動の計画や成果を「LMAG Kansai Newsletter」にて広報し、活動報告する

h. WIE Affinity Group

【2023 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

2023 年は Kansai WIE の設立 10 周年であった。毎年秋開催の WIE シンポジウムについては記念のシンポジウムにするため、対面による参加を中心に考えつつ、より遠方からの方々にも参加してもらえるよう開催方法を検討した結果、オンラインと現地開催のハイブリッド方式での開催とした。そして、2023 年 10 月 21 日(土)に立命館大学茨木キャンパスとオンラインで「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2023 10th



anniversary」を開催した。IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group、IEEE Kansai Section Educational Activities、IEEE Kansai Section Life Member Affinity Group、IEEE Student Branch at Osaka University、IEEE Student Branch at University of Hyogo、IEEE Student Branch at Ritsumeikan University、IEEE Student Branch at Kyoto University、IEEE Student Branch at Kansai University、IEEE Student Branch at Doshisha University、IEEE Student Branch at Nara Institute of Science and Technology、IEICE Kansai Section.に共催いただき、特に広報に関して協力し準備を行った。今回は 10 周年という事でポスターのデザインを刷新し、かつエコバッグの記念品も作成した。

シンポジウム前半では、例年の女性技術者や研究者に加え、囲碁界で活躍する女性にも講演を依頼し、話をしていただいた。

「データの形を理解する：歪んだ形と尖った形のデータの解析」

統計数理研究所・教授 松井知子 氏

「囲碁の魅力と効能、AI による発展について」

関西棋院・囲碁棋士 小野綾子 氏

「芸大のピアノ弾きが工学部の聴覚研究者になるまで」

豊橋技術科学大学・教授 松井淑恵 氏

シンポジウムの後半は、現地参加の方々とオンライン参加の方々に分けて、グループトークを実施した。テーマは「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」である。

シンポジウムへの参加者は128名と、昨年から2倍以上の参加者となった。講演者を研究界だけでなく、他分野まで広げたこと。関西の主な大学の男女参画推進室への案内を行い、更



には関西圏の大学や高校へのポスター送付も効果があったものと思われる。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして、開催形態は問わずに、「関西の」女性技術者・研究者、理系の女子大学院生・学部生、そして理系進路選択を考える女子高校生のエンパワメントを目的として継続していく予定である。

(2) 役員会

- 1) 2023年03月07日 2023年第1回委員会（対面、及びオンライン）
- 2) 2023年05月25日 2023年第2回委員会（対面、及びオンライン）
- 3) 2023年07月06日 ポスターデザイン打ち合わせ（オンライン）
- 4) 2023年09月13日 2023年第3回委員会（対面、及びオンライン）
- 5) 2023年10月21日 2023年第4回委員会、及びシンポジウム（対面、及びオンライン）
- 6) 2023年10月30日 2023年第5回委員会（オンライン）

【2024年活動計画】

2024年は、10周年で得た活動経験を活かし、更なる活性化を図っていく。

- ・ Kansai WIE の活動を紹介するパンフレットを作成し、活動の広報を強化する。
- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。理系の女子大学院生や学部生の近い未来のキャリア支援、さらに理系進路を考える高校生への進路選択の一助となるような内容も含めることで、参加者層を拡張する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

i. Young Professionals Affinity Group

【2023 年活動報告】

SAC、MDC、WIE AG、EA、SB と連携し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進するためのイベントを企画、共催した。また、他 Section の YPAG との合同イベントを 2 件開催し、国内第 2 位の規模を誇る Kansai Section の YPAG として国内の若手技術者の交流及びキャリアアップ支援を行った。以下、主なイベントの一覧。

- 1) (合同開催) **IEEE Japan YP Study Lab 2023 in Nagoya (22-Apr)**
 - (ア) (共催) Raspberry Pi 勉強会
 - (イ) (主催) **Overleaf 勉強会**
- 2) (共催) IEEE Kansai Section 第 3 回 EA イベント (19-Aug)
- 3) (共催) The 3rd Hokkaido Young Professionals Workshop (22-Sep)
- 4) (合同開催) **IEEE Kansai Section SB-YP Joint Event in 2023 (30-Sep)**
 - (ア) (共催) IEEE 関西支部 Student Branch 研究交流会
 - (イ) (主催) **第 2 回 社会人と学生の交流会**
- 5) (共催) IEEE Kansai WIE シンポジウム 2023 (21-Oct)
- 6) (共同主催) **第 5 回 博士課程のキャリアについて語る会**
-IEEE Japan YP Career Lab 2023 in Himeji- (12-Nov)
- 7) (後援) The 20th English Presentation Competition in Ritsumeikan (1-Dec)
- 8) Board Meeting (毎月開催)

【2023 年主催イベント報告】

YPAG 主催イベント「Overleaf 勉強会」

本イベントは若手技術者のスキルアップを目的として実施した、オンライン LaTeX エディタである Overleaf の勉強会である。Overleaf はブラウザで利用でき、複雑な環境構築が不要なオンライン LaTeX エディタである。IEEE 会員であれば最高プランが無料で利用でき、無制限の共同編集、外部サービス (GitHub、Dropbox、Mendeley など) による執筆の効率化が可能などさまざまなメリットがある。Overleaf 導入の最初のきっかけとして、IEEE 論文のテンプレートを共同で編集し、簡単な使い方を理解できることをゴールとした。また、本イベントは Nagoya Sect. YPAG のイベント「Raspberry Pi 勉強会」と連催で行った。

- 日時: 2023 年 4 月 22 日 (土)
- 場所: ナゴヤイノベーションズガレッジ Collaboration Area – West、
オンライン (WebEx Webinar)
- 主催: IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group
- 共催: 豊田自動織機, IEEE Nagoya Sect. YPAG, IEEE Japan Council,
IEEE SB at Kansai Univ.

協賛: IEEE Kansai Sect. WIE AG / LMAG, IEEE Sapporo / Sendai / Tokyo Sect. YP AG,
IEEE HSF Jt. Sect. YP AG

参加者: 現地 21 名、オンライン (登録者数) 58 名

イベント内容:

10:30-12:30 (連催: Raspberry Pi 勉強会 (Nagoya Sect. YP AG 主催))
13:30-13:45 開会挨拶, 概要説明
13:45-14:25 講演 1: Overleaf の使い方 (大阪大学 塩見 準 先生)
14:35-15:45 講演 2: LaTeX の文法 (京都大学 佐藤 丈博 先生)
15:50-16:20 講演 3: integration ツールとバックアップ方法の紹介
(総研大 / NII 青木 信雄 様)
16:20-16:30 IEEE YP 活動紹介, 閉会挨拶

YPAG 主催イベント「第 2 回 社会人と学生の交流会」

本イベントは YP AG と関西支部内 SB との連携強化を目的とし、Membership Development Committee (MDC) に所属する社会人メンバーに仕事内容や、仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表いただくことで、互いに交流の機会が少ない社会人と学生が交流し相互理解を深めるイベントである。共催団体である大阪工業大学から 2 名の参加者を含む計 29 名が集まり、大規模なイベントとなった。参加者の感想によれば、「将来の就職に向けて、取り組むべきことや臨むべき姿勢を知ることができた」という意見が多く挙げられ、イベントが参加者にとって有益であったことが示された。また、講演者同士でも活発な交流が見られ、専門知識や経験の共有が行われたことが、参加者の肯定的な感想として述べられた。

日時: 2023 年 9 月 30 日 (土)

場所: 大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー セミナー室 201・202

主催: IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group

共催: 大阪工業大学, IEEE Kansai Sect. MDC / LMAG,
IEEE SBs in Kansai Section (Osaka Univ., Kyoto Univ., Doshisha Univ.,
Ritsumeikan Univ., NAIST, Univ. of Hyogo, Ritsumeikan Univ.)

参加者: 23 名

謝辞: IEEE Japan Council より Section 支援費 80,686 円の支援を受けた。

イベント内容:

10:30-14:10 (連催: IEEE 関西支部 Student Branch 研究交流会)
14:30-14:40 開会の挨拶
14:40-16:00 石野 祥太郎 様 (古野電気株式会社)

	「継続は力なり～社会人 13 年目物語～」
	松居 真一 様 (パナソニック ホールディングス株式会社)
	「パナソニックの事業に向けた研究開発 ～過去の個人的経験から～」
	棕木 康滋 様 (三菱電機株式会社) 「社会人と学生の交流会」
	匿名 「これから就職をする学生に対して社会人として伝えたいこと」
16:10-17:30	木村 啓明 様 (ローム株式会社) 「研究を事業に繋げるために大切なこと」
	長崎 裕介 様 (オムロン株式会社) 「今、何をすべきか」
	加藤 貴敏 様 (株式会社村田製作所)
	『大学の研究』と『企業の研究開発』は何が違いますか？」
	澤田 宏 様 (日本電信電話株式会社) 「NTT 研究所での研究活動」
17:30-17:40	閉会の挨拶
18:30-19:30	意見交換会

YPAG 合同主催イベント「第 5 回 博士課程のキャリアについて語る会」

現役の博士後期課程の学生および博士学位取得後に大学や企業に就職した方々を招き、講演およびグループディスカッションを通じて、学生会員自身のキャリアについて考えるイベントである。今回で 5 回目の開催となったが、合計 39 名の参加者が集まり、講演だけでなくグループディスカッションも大いに盛り上がった。参加者からは「博士への進学を検討している人への希望になった」といった声が寄せられ、特に学生会員が自身のキャリアを考える上で参考になることができたといえる。博士課程への進学者が減少している昨今において、本イベントは若手研究者・若手技術者・学生自身による貴重な体験を共有する数少ない場でもあり、若手会員の本会への参加および貢献を促進する重要な役割を果たしている。

日時: 2023 年 11 月 12 日 (土)

場所: アクリエひめじ (姫路市文化コンベンションセンター) 会議室 407、
オンライン (Zoom Meeting)

主催: IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group,
IEEE Hiroshima, Shikoku and Fukuoka Jt. Sect. YPAG

共催: IEEE Japan Council

協力: IEEE Kansai Sect. LMAG / WIE AG, IEEE Sapporo Sect. YPAG

参加者: 39 名

イベント内容 :

13:00-13:10 開会の挨拶

13:10-15:00 講演 4 件

新井 美音 様 (大阪大学) 「私が博士課程に進学するまで」

耿 毓庭 様 (立命館大学) 「博士課程のキャリアについて語る会」

島谷 二郎 様 (パナソニック)

「博士卒サラリーマンによる学生時代の振り返り」

Nyi Nyi Tun 様 (九州大学) (HSF YP にて選任)

“Doctoral Student Life and Job Hunting in Japan”

15:10-16:10	グループディスカッション
16:10-16:40	IEEE からのお知らせ・閉会の挨拶
17:30-19:30	懇親会

【2024 年活動計画】

引き続き支部内で連携イベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進する。昨年実施できなかった Workshop / Competition 系イベントの実施に向けて調整している。また YP AG は本年で 10 周年を迎えるため、大型の周年記念イベントを企画している。

加えて Section 外との連携を更に強めるために「Overleaf 勉強会」を JC YP と連携して他 Section の YP AG との合同イベントとする。全国各地に YP AG メンバーを派遣してネットワークやキャリアアップ活動を行うことで、新規 YP 会員の獲得および他支部から転入した YP 会員の継続的な YP 活動支援を目指す。

j. Educational Activities

【2023 年活動報告】

一昨年 2020 年後半に JC より各支部から担当を出すよう依頼があり、田邊 Past TPC Chair が新たに関西支部における EA Chair に選出され活動を開始した。

EA(Educational Activities)は、IEEE 本部のある米国では以前から活発に活動をしており、IEEE 会員、会員以外の IEEE 技術に関心のある一般、高校生などに向け、関連技術教材の作成、無料の技術講演会、ワークショップなどを開催する教育的啓蒙活動を行っている。米国で作成した教材は、非常によく出来たものであるが、使用言語が英語であり、自動翻訳では十分に意味が取れない難点があるため日本語化はされていない。

そのため、Resion 10 の中でもインドなども含め、ローカルの言語での EA 活動が呼びかけられており、昨年 2021 年より、福田 Past IEEE President の強い働き掛けもあり、JC 取りまとめで活動を興した。

とはいえ IEEE の特徴は、最先端の技術を英語で学べるところにあり、「英語で学ぶ先端技術」を大テーマとして、高校生、大学生、若手エンジニアが、直に英語で講演や文献に触れ、英語で技術を理解し、技術ディスカッションが出来ることをサポートしていく。

以下、昨年 2023 年 8 月 19 日(土)にハイブリッド形式(現地：大阪工大梅田キャンパス)で開催した「第 3 回 IEEE 関西支部 EA イベント」の内容を紹介する。

- 13:00-13:15 あいさつ、概要説明など

- 第1部： 13:15-14:15 講演：
「多様な産業および学術環境からの研究開発の教訓：観察と行動」
“R&D Lessons from Diverse Industrial and Academic Environments”
講演者：ジェームス キュージック (James Cusic) さん
日本をベースとする IT コンサルタント



- ベル研、コロンビア大学、IT ビジネスの経験から、科学技術分野におけるライティングやプレゼンテーションを含め、協業やコミュニケーション、スキルの開発の重要性を述べていただいた。

From Bell Labs to Columbia University to a global IT business, key observations, stories, and recommended actions are presented. This talk will highlight the importance of collaboration, communications, finding your voice, continual skill development, and leadership.

14:30-16:40 ビデオ講演会「ニューロ・グリッドとは？」

使用教材: NeuroGrid: Recording action potentials and large-scale network activity from the surface of the brain

／ Dr. Jennifer Gelin, Columbia University

- 第2部： 14:30-16:40 ディスカッション：ニューロ・グリッドとは？
使用教材：NeuroGrid: Recording action potentials and large-scale network activity from the surface of the brain /Dr. Jennifer Gelin, Columbia University

講演動画を見て国際学会聴講の疑似体験をし、生成 AI、人間の知的活動の仕組み、AI と人の脳の違いについて英語でディスカッションを行った。ディスカッションの内容は『人工知能、AI と人間の共存！』
実行委員による言語的な補助を行い、英語が得意でない方も参加できるようにした。また、事前に量子コンピュータに関する用語集、基本的な原理解説を送り、文系の人にも参加しやすいようにした。



- 16:40-17:00 質疑、ラップアップ

【2024年活動計画】

本年度も8月後半、または、9月初旬の土曜日に EA イベント開催を予定している。大テーマとして「英語で学ぶ先端技術」は引き続き維持し、高校生、大学生、若手エンジニアが、英語で先端技術を学ぶ機会を作り、その能力向上をサポートしていく。

関西支部 EA として独自に教材を作成することはマンパワーもあり行わない。高校生などにとっても、技術を英語で学ぶことは有益であり、本部の英語教材で内容的によく出来ているものは、積極的に紹介していく。

EA 単独ではマンパワー不足であり、TPC, WIE, LMAG, YP などの協力をお願いし、JC、他支部とも協力し、活動を盛り上げていく。会員各位のご協力をおお願いすると同時に、活動に対する提案をお待ちしている。今年もハイブリッドで大阪工大梅田キャンパスにて EA イベント開催を予定している。国内学会との差別化として IEEE らしく英語の強化をしたい。関西支部の外国籍の方なども、巻き込んでいきたいと考えている。

今期も支部 EA Chair 続投予定である。また、昨年1月1日より立命館大学教授の西浦先生が EA Kansai Sub-Chair に就任されている。本部では EA は重要視されているが、日本では始まったばかりで認知度が低い。また、組織として支部 EA Chair、Sub-Chair のみで人員を他に有していないので、経験のある人や支部内で顔が利く人でないと、イベント企画もままならない。経験豊富なベテランでなくても遂行できる、つまり、より多くの方に就いていただけるような準備も支部で行う予定である。

また取り上げる内容は、高校生や文系の方には、やや背伸びが必要なものを考えているが、そういった分野、レベルの英語に「慣れて」いただくことを目標としたい。

10. Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2023 年活動報告】

2023 年は、復活した従来のオンサイト開催と、コロナ禍をきっかけとして始まったオンライン開催の両方を活用して、以前と同じ行事でありながら、以前にも増して効果的に活発な活動ができた。オンサイト開催は、オンライン会議が多くなるいまだからこそ、雰囲気の体感とヒューマンネットワークの形成の重要性が再認識されていると考える。いっぽう、オンライン開催は、その利便性と参加の金額設定により、圧倒的な集客力が期待できる。以下のそれぞれの行事の詳細を報告する。

[主催]

● 第 6 回ラウンドテーブルワークショップ

年月日/会場 2023 年 04 月 07 日 龍谷大学大阪梅田キャンパス&オンライン(Zoom)開催

講演件数: 2 件 / 出席者数: 現地 20 名・オンライン 25 名

演 者: 梅沢仁氏(産業技術総合研究所)

演 題: ダイヤモンドパワーデバイスの開発動向

演 者: 林和志氏(株式会社神戸製鋼所)

演 題: シニア昇格申請にあたり感じたこと

ラウンドテーブルワークショップは、電子デバイス関連の企業活性化のために行っており、今年が 4 年目である。今回は、直近のシニア昇格を遂げた演者にその体験を語ってもらうことで、今後のシニア昇格の活性化を期待している。

● 技術講演会

年月日/会場 2023 年 06 月 05 日 龍谷大学大阪梅田キャンパス&オンライン(Zoom)開催

講演件数: 2 件

演 者: 福田武司氏(積水化学工業株式会社)

演 題: 社会課題起点の新規事業創造

演 者: 河西秀典氏(元 シャープ福山セミコンダクター株式会社)

演 題: 企業における研究開発 ―光デバイスと化合物半導体を中心として―

● VLSI Symposium 報告会 (主催 IEEE SSCS & EDS Kansai Chapter)

年月日/会場 2023 年 07 月 25 日 大阪大学附属図書館&オンライン開催

講演件数: 23 件

● 第 23 回 関西コロキウム電子デバイスワークショップ

年月日/会場 2023 年 10 月 06 日 オンライン(Zoom)開催

講演件数: 9 件 / 出席者数: 約 50 名

https://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/2023/The%2023nd%20Kansai_Colloquium_Electron_Device_Workshop_R1.pdf

過去一年(2022 年 4 月~2023 年 3 月)の IEEE EDS の論文誌や主要 Conference のなかから、関西に関係のある研究者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもら

うものである。IEEE EDS Kansai Chapter of the Year Award と IEEE EDS Kansai Chapter MFSK Award がそれぞれ 1 件選出された。これらの Award は Chapter 支援費利用事業である。

- **IMFEDK 2023 (The 2023 International Meeting for Future Electron Devices, Kansai)**
年月日/会場 2023 年 11 月 16～17 日 龍谷大学アバンティ響都ホール校友会館&オンライン(Zoom)開催
講演件数:41 件 / 参加登録者:215 名 / Zoom 参加アカウント 270 接続先
EDS Kansai Chapter の唯一かつ最も権威ある国際会議である。Special Lecture として IEEE Andrew S. Grove Award の受賞の記念の木本氏(京都大学)・Keynote として平本氏(東京大学)・Greco 氏(CNR-IMM)・招待講演者 7 人のみなさまから、ご講演いただくとともに、口頭講演・ポスター講演(ショートプレゼン付き)があった。Oral Presentation から IMFEDK Best Paper Award の 1 件・Poster Presentation から IMFEDK Student Paper Award の 2 件が選出された。昨年に引き続きオンサイトとオンラインのハイブリッド開催であり、関西 Chapter 20 周年の昨年の 436 名には及ばなかったが、参加登録者 215 名と、ハイブリッド開催のメリットを最大限に活かした盛大なイベントが実施できた。Award とハイブリッド開催費用は、Chapter 支援費利用事業である。

[後援]

- **AM-FPD '23**
年月日/会場 2023 年 07 月 04～07 日 龍谷大学アバンティ響都ホール校友会館&オンライン(Zoom)開催
- **EDTM 2023 報告会**
年月日/会場 2023 年 08 月 22 日 東京工業大学大岡山キャンパス
- **第 10 回 電子デバイスフォーラム京都**
年月日/会場 2023 年 10 月 23～24 日 京都リサーチパーク(KRP)

[関連行事]

- **龍谷大学 キャリアセミナー**
年月日/会場 2023 年 06 月 20 日 龍谷大学瀬田キャンパス&オンライン(Zoom)開催
演者 渡辺博文氏 (W.T.C.) / 出席者数: 約 100 名
- **立命館大学 講演会**
年月日/会場 2023 年 07 月 11 日 立命館大学&オンライン(Zoom)開催
演者 渡辺博文氏 (W.T.C.)
ともに若手の研究者のキャリアアップを目指した講演会で、大学院進学者の増加を目論む。

[委員会]

- **Electron Devices Society Kansai Chapter 総会・第1回 委員会**
年月日/会場 2023 年 01 月 12 日 オンライン(Zoom)開催
出席者数: 27 名
- **Electron Devices Society Kansai Chapter 第 2 回 委員会**
年月日/会場 2023 年 04 月 26 日 オンライン(Zoom)開催
出席者数: 21 名

● Electron Devices Society Kansai Chapter 総会・第3回 委員会

年月日/会場 2023年07月27日 オンライン(Zoom)開催

出席者数: 24名

● Electron Devices Society Kansai Chapter 第4回 委員会

年月日/会場: 2023年10月16日 オンライン(Zoom)開催

出席者数: 約24名

委員会はすべてオンライン開催で、以前よりも多くの出席者を確保できている。

【2024年活動計画】

2024年も2023年とほぼ同様に、オンサイト開催とオンライン開催の両方を活用して、以下の行事を予定している。若手研究者も対象とした国際会議や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行うとともに、会員獲得につなげることも目標とする。

[主催]

- ラウンドテーブルワークショップ
- DL・技術講演会
- 関西コロキウム電子デバイスワークショップ
- IMFEDK (International Meeting for Future Electron Devices, Kansai)

[関連行事]

- キャリアセミナー

[委員会]

- Electron Devices Society Kansai Chapter 総会2回・委員会4回

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2023年活動報告】

3月30日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で技術セミナー (ISSCC 2023 国内報告会) をハイブリッド形式で開催した。全10件の講演があり、参加人数は108名であった。

4月10日～11日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 (主催: 電子情報通信学会 集積回路研究会) に協賛した。参加人数は42名であった。

5月9～10日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“YPとシステムのワークショップ2023”をハイブリッド形式で開催した。参加人数は616名であった。また Academic Research Award を2件与えた。

6月19日に、“テクニカルセミナー(講演者: Dr. Alvin Loke)”を神戸大学にて開催した。参加人数は19名であった。

7月23日～25日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 夏の合宿(主催: 電子情報通信学会 集積回路研究会)に協賛した。参加人数は20名であった。

7月25日に、IEEE EDS Kansai Chapter、IEEE SSCS Japan Chapter、IEEE EDS

JapanChapter と共催で技術セミナー (VLSI Symposia 2023 国内報告会) をオンラインで開催した。全 21 件の講演があり、参加人数は 98 名であった。

8 月 28 日～29 日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar (主催: 東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター (d.lab) 主催) に協賛した。参加人数は 8 名であった。

8 月 31 日～9 月 1 日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar (主催: 東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター (d.lab) 主催) に協賛した。参加人数は 7 名であった。

9 月 5 日～6 日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar (主催: 東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター (d.lab) 主催) に協賛した。参加人数は 6 名であった。

9 月 11 日～13 日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar (主催: 東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター (d.lab) 主催) に協賛した。参加人数は 4 名であった。

9 月 20 日～22 日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar (主催: 東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター (d.lab) 主催) に協賛した。参加人数は 14 名であった。

9 月 25 日～26 日にオンラインで開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar (主催: 東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター (d.lab) 主催) に協賛した。参加人数は 6 名であった。

9 月 28 日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、アクセラレーション技術発表討論会をハイブリッド形式で開催した。参加人数は、48 名であった。

10 月 31 日にハイブリッド形式で開催された、ハードウェアセキュリティ研究会に協賛した。参加人数は 25 名であった。

12 月 2 日～4 日に開催された、集積回路研究会 学生・若手研究会に協賛した。参加人数は 45 名であった。

【2024 年活動計画】

2024 年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。グローバルな流れを考えると、対面でのイベント開催とオンラインでのイベント開催のハイブリッド形式の実施を目指す。関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2023 年活動報告】

2023 年は、3件の技術講演(主催1件、共催2件)を開催した。また、5件の国内学会に協賛した。主催、共催、協賛イベントの詳細は以下の通りである。

[主催]

- 9月22日 IEEE CASS Kansai Chapter Seminar
 - Prof. Youngsoo Shin (KAIST), “EDA with ML, Rule-Based, or Both?”
 - Prof. Woojoo Lee (Chung-Ang University), “RISC-V eXpress: Streamlining Swift and Simple RISC-V Processor Development”

[共催]

- 2月1日 セミナー "宇宙開発とシステムズエンジニアリング"
 - 上野宗孝 (宇宙航空研究開発機構・宇宙探査イノベーションハブ・技術領域主幹), “宇宙開発とシステムズエンジニアリング”
- 6月16日 International Symposium on Integrated Circuits and Systems for Smart Society
 - Danilo Demarchi (Polytechnic University of Turin), “Let the Plants do the Talking: Smart Agriculture by the messages received from Plants and Soil”
CASS Distinguished Lecturer
 - Priyanka Raina (Stanford University), “CHIMERA: Efficient DNN Training and Inference at the Edge with On-Chip Resistive RAM”
 - Tony Tae-Hyoung Kim (Nanyang Technological University), “Design of computing-in-memory: Analog vs. Digital”

[協賛]

- 5月9日～5月10日 LSIとシステムのワークショップ 2023
- 9月4日 システム制御情報学会セミナー2023「メタヒューリスティクスの設計と実装」
- 10月7日～10月8日 第66回自動制御連合講演会
- 11月7日 第203回システムとLSIの設計技術研究発表会 (**優秀な学生にIEEE CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Awardを授与**)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、Circuits and Systems Society DL 講演会を開催した。2022年から設立された「IEEE CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Award」を1名に授与し、学生の研究活性化を行った。他学会主催の国内大会の協賛も実施し、参加者との交流を通じた CASS 関西チャプターの活動のアピールと会員の獲得に努めた。ビジビリティアップのために、CASS Kansai Chapter の Web ページを英語に対応させた。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

【2024年活動計画】

2023年から引き続き、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2023年活動報告】

昨年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動を進めた。2023年は、主催技術会議3件を実施した。

【主催技術会議】

1. 1月19日に、広島工業大学 広島校舎にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として「濱崎 利彦 氏 (広島工業大学)」をお招きし、「農林水産業 IoT に向けた無線センサネットワーク構築支援シミュレータの開発」と題してご講演いただいた。
2. 4月14日に、大阪大学大学院理学研究科 南部陽一郎ホールにて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として「小川 和久 氏 (大阪大学)」をお招きし、「大阪大学 QIQB における超伝導量子コンピュータ開発」と題してご講演いただいた。
3. 9月29日に、高知城歴史博物館 1F ホールにて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として「山本 真行 氏 (高知工科大学)」をお招きし、「インフラサウンド帯域の開拓と地域防災への応用」と題してご講演いただいた。
4. 12月23日に、京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 15号館にて、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を共同主催した。講演者として「西田 翼 氏 (株式会社村田製作所)、南 大晴 氏 (三菱電機株式会社)、山口 拓也 氏 (古野電気株式会社)」をお招きし、それぞれ「Flat Lens によるビームフォーミング技術の発展を目指した取り組みの紹介」、「ヘリサットシステムの開発紹介」、「船舶用レーダーの技術紹介」と題してご講演いただいた。また、各大学等からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

【2024年活動計画】

昨年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動し、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画するとともに、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップおよび MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予

定している。

【主催技術会議】

1. 2024年4月某日に、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。開催場所・講演者は現在選定中である。
2. 2024年9月某日に、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。開催場所・講演者は現在選定中である。
3. 2024年12月某日に、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催場所・共同主催する予定である。講演者は現在選定中である。

【協賛等技術会議】

1. 2024年1月8-10日に、ベトナムハノイ Electric Power University にて、IEICE AP 研主催「The 2024 Vietnam-Japan International Symposium on Antennas and Propagation」が開催され、協賛する。
2. 2024年4月15日-18日に、東北大学にて、「International Workshop on Antenna Technology」が開催され、Technical Sponsor として協賛する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2023年活動報告】

2023年は技術講演会を1回協賛した。

[技術講演会] 協賛

第14回光・電波ワークショップ「テラヘルツ波：これまでとこれから」

講師：永妻忠夫教授（大阪大学）

タイトル：テラヘルツ波の応用はどこまで進んだか～40年の歴史を振り返る～

講師：富士田誠之准教授（大阪工大）

タイトル：テラヘルツ集積システムの新潮流～鍵を握るのはインターコネクション～

年月日：2023年11月21日 オンライン開催

主催：KEC 関西電子工業振興センター

出席者数：109名

広報活動を活性化するため、Webサイトを活用してCOMS Kansai Chapterに関する情報公開を行っている。活動計画や報告は下記のURLにより提供している。

【2024年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。今年はできるだけオンライン開催も含めて開催数を増やすようにする。春以降に講演者を招待し、IEEE COMS

Kansai Chapter 技術講演会を主催する。また、他の研究講演会への積極的な共催をはかり、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2023 年活動報告】

2023 年は 2 件の技術講演会の主催、及び 3 件の協賛を行った。技術講演会の内容は以下の通りである。

2023 年 8 月 10 日に、キャンパスプラザ京都に於いて、「エネルギーマネージメントの理論と実践」をテーマとし、2 件の講演を行った。1 件目は「熱的快適性を考慮したスマートビルディング向けエネルギーマネージメント」と題して、大阪大学の谷口一徹氏に、居住者の熱的快適性を考慮した建物向けエネルギーマネージメント技術の最近の研究成果とその実証実験についてご紹介頂いた。2 件目はダイキン工業株式会社/大阪大学の鈴木智博氏に、国立大学初の ZEB ORIENTED 棟となった大阪大学外国学研究講義棟の概要およびエネルギー分析事例についてご紹介を頂いた。講演会では、22 名（内 IEEE 会員 12 名）の参加登録を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2023 年 12 月 19 日に、京都工芸繊維大学に於いて、「生成 AI の最新技術動向と直面する課題」をテーマとし、2 件の講演を行った。1 件目は「大規模言語モデルの活用および課題」と題して、奈良先端科学技術大学院大学の渡辺太郎氏に、ChatGPT における prompt による教育分野の応答生成や fine-tuning によるマルチモーダル対話を実現する手法を紹介いただくとともに、hallucination と呼ばれる無意味な文を生成する問題に関する研究を紹介いただいた。2 件目は「Vision and Language 分野の最新の研究動向」と題してパナソニックホールディングス株式会社の加藤祐介氏に、Vision and Language 分野の近年の発展状況およびパナソニックホールディングス株式会社と UC Berkeley との共同研究成果に触れながら最新技術の動向について紹介いただいた。講演会では、80 名（IEEE 会員 37 名）の参加登録があり、非常に活発な議論が行われた。

また CS Tokyo/Japan Chapter と共同で IEEE CS Kansai Young Author Award の募集と選考を実施し、大阪大学の佐々木勇和先生を表彰した。

【2024 年活動計画】

2023 年は引き続き技術講演会及び Young Author Award を実施するとともに、学生や若手研究者を主な対象とした研究活動の奨励と質の高い技術情報提供を行い、積極的な IEEE 会員獲得を目標とする。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2023 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. DML(Distinguished Microwave Lecturers) (共催)

演者：Dr. Bodhisatwa Sadhu (IBM T. J. Watson Research Center)

演題：SILICON-BASED MILLIMETER-WAVE PHASED ARRAYS FOR 5G:
FUNDAMENTALS TO FUTURE TRENDS

年月日：2023 年 4 月 14 日

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス 大岡山西 8 号館(E) 10 階会議室

出席者数：61 名 (会員 42 名、非会員 19 名)

2. IEEE MTT-S Kansai Chapter ワークショップ (主催)

「電磁波によるバイタルセンシング技術の最新動向」

(1) 演者：阪本 卓也 (京都大学)

演題：ミリ波バイタルセンシングの基礎とヘルスケア応用

(2) 演者：桑原 義彦 (愛知医科大学医学部外科学講座)

演題：散乱トモグラフィを使用した乳がん検出の実用化技術

(3) 演者：ポカレル ラメシュ (九州大学大学院システム情報科学研究院)

演題：体内埋め込み型メタマテリアル支援 WPT システムにより電力と情報の同時伝送に関する研究

(4) 演者：中村 昌人 (NTT 先端集積デバイス研究所/物性科学基礎研究所 バイオメディカル情報科学研究センター)

演題：同軸プローブを用いた非侵襲グルコースセンシング技術

年月日：2023 年 5 月 13 日

会場：京都大学宇治キャンパス木質ホール (ハイブリッド開催 Zoom)

出席者数：64 名 (会員 37 名、非会員 27 名) (オンライン参加 40 名)

3. 第 16 回マイクロ波英語発表会 (主催)

年月日：2023 年 7 月 15 日

会場：立命館大学 びわこ・くさつキャンパス ローム記念館 4 階 大会議室

発表件数：10 件 / 参加者数 37 名 (会員 16 名、非会員 21 名)

4. IEEE MTT-S Kansai Chapter ワークショップ (主催)

「マイクロ波とカーボンニュートラル」

(1) 演者：萩本 陽和 (マイクロ波化学株式会社)

演題：マイクロ波とカーボンニュートラルで化学産業を変革する MX(Microwave

Transformation)

(2) 演者：檜村 京一郎（中部大学）

演題：持続可能社会におけるマイクロ波加熱技術

(3) 演者：岸本 史直（東京大学）

演題：カーボンニュートラルに向けた触媒システム設計

(4) 演者：吉田 睦（富士電波工機株式会社）

演題：脱炭素社会に向けた電磁波(高周波/マイクロ波加熱)技術の社会実装例

年月日：2023年10月14日

会場：立命館大学・朱雀キャンパス 多目的室（ハイブリッド開催 Zoom）

出席者数：44名（会員25名、非会員19名）（オンライン参加26名）

5. IEEE MTT-S Kansai Chapter and IEEE AP-S Kansai Joint Chapter

合同若手技術交流会 2023（主催）

（第一部）講演

(1) 演者：西田 翼（株式会社村田製作所）

演題：Flat Lensによるビームフォーミング技術の発展を目指した取り組みの紹介

(2) 演者：南 大晴（三菱電機株式会社）

演題：ヘリサットシステムの開発紹介

(3) 演者：山口 拓也（古野電気株式会社）

演題：船舶用レーダーの技術紹介

（第二部）ポスターセッション

年月日：2023年12月23日

会場：京都工芸繊維大学 15号館（第一部のみハイブリッド開催）

出席者数：54名（会員23名、非会員31名）

II. 選奨

1. IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award

I. の 3. に記載の英語発表会で優れたプレゼンテーションを行った者に「Best Presentation Award」を授与した。更に、上位1名に対して「IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award」を授与した。授与式は2023年12月23日に実施。

2. IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award

MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter の合同で、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手(38歳以下)の研究者個人に「IEEE Microwave Theory and Techniques Society Japan Young Engineer Award」を贈呈した。また、

その中から特に優れた論文の著者に対して「Michiyuki Uenohara Memorial Award」を進呈した。

※受賞者は以下に記載

https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/YEA_past_awardees/index.html

※対象者の要件等は以下に記載

<https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/index-j.html>

III. 協賛

1. 第 16 回日本電磁波エネルギー応用学会研究会

-マイクロ波ユーザー企業が期待するマイクロ波・高周波技術 - (主催：JEMEA)

2023 年 1 月 27 日 オンライン

2. 無線電力伝送コンテスト (主催：無線電力伝送研究専門委員会)

2023 年 3 月 17 日 ハイブリッド開催 (京都大学宇治キャンパス)

3. 第 14 回 日本電磁波エネルギー応用学会講演会

-マイクロ波による CVD 技術 人工ダイヤモンドの展望- (主催：JEMEA)

2023 年 5 月 26 日 オンライン

4. 第 17 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム -持続可能な開発目標ための最先端電磁波エネルギー利用技術を展望する国際シンポジウム- (主催：JEMEA)

2023 年 10 月 25 日～10 月 27 日 北九州国際会議場

5. 2023 Microwave Workshops & Exhibition (MWE 2023)

2023 年 11 月 29 日～12 月 1 日 パシフィコ横浜

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. KC 役員会

2023 年 1 月 9 日 / Web 会議 出席者数：11 名

2023 年 12 月 17 日 / Web 会議 出席者数：8 名

2. JC/KC/NC 合同役員会

2023 年 3 月 27 日 / Web 会議 Chapter からの出席者 7 名

2023 年 9 月 21 日 / Web 会議 Chapter からの出席者 3 名

3. 2023 年 IEEE 関西支部総会

2023 年 3 月 2 日 / ハイブリッド開催 Chapter からの出席者 1 名

4. 2023 年 IEEE Chapter Operation Committee

2023年5月31日 ハイブリッド開催 Chapterからの出席者数：1名

2023年11月27日 ハイブリッド開催 Chapterからの出席者数：1名

【2024年活動計画】

2024年は、コロナの状況を見据えながらオンライン/オフライン/ハイブリッドで開催形式を検討しつつ、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う。技術領域としてはこれまでの戦力領域の枠組みに拘らず、新領域分野の開拓も検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。マイクロ波英語発表会での優秀な発表者2名に IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award を授与し、国際的に活躍できる若手技術者の育成を強化する。また、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手研究者3名に IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き MTT-S Japan Chapter、MTT-S Nagoya Chapter と共同で行う。2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2023年活動報告】

Technical Meeting として、1月23日(月)に、大阪大学豊中キャンパスにて、IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、高橋和氏(大阪公立大学)から「CMOS 互換プロセスで作製された高 Q 値フォトニック結晶ナノ共振器」、野田進氏(京都大学)から「(日本学士院賞受賞記念講演) フォトニック結晶による光制御法の極限的開拓と半導体レーザ高度化への応用」という題目でそれぞれご講演いただいた。参加者は53名と盛会であった。本講演会は、翌日24日(火)も含む2日間にわたって開催された、電子情報通信学会 MWPTHz/PN/EMT、電気学会 EMT 研究会との併催である。

8月24日(木)-25日(金)には、東北大学で開催された電子情報通信学会 LQE/OPE/CPM/EMD/R 共催の8月研究会に協賛、招待講演14件と一般講演5件があった。参加者は135名と盛会であった。

11月11日(土)には、オンラインにて、「第9回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。7名の学生による英語での発表のほか、増山昌樹氏 (NTT 西日本) から「Attempt at IOWN in NTT WEST」と題してご講演いただいた。学生の優れた発表1件に対しては Best Student Presentation Award と副賞を授与した(Chapter 支援費を利用)。参加者は21名であった。

12月7日(木)-8日(金)には、機械振興会館で開催された電子情報通信学会 OPE/LQE/PICS 合同研究会 Photonic Device Workshop 2023 に協賛、LQE 奨励賞受賞

記念講演 2 件、チュートリアル講演 1 件、招待講演 11 件、OPE/LQE1 種研として併催したポスター発表 40 件があった。PDW2023 の参加人数は 156 名と盛会であった。

Administrative Meeting としては、1 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月にオンラインで役員会を 7 回開催、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

【2024 年活動計画】

2024 年も、Technical Meeting の開催を中心に活動を展開する。1 月 22 日には、例年通り電子情報通信学会 PN/MWP/EST/EMT/PEM 合同研究会と併催の形で特別講演イベントを主催する。また、例年好評を博している英語発表会を 11 月頃に開催する。今年から、前年の英語発表会において優秀な発表をし、かつ国際会議発表を行った学生に学生奨励賞を贈呈する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2023 年活動報告】

以下の Technical Meeting を共催した。

1. 第 38 回信号処理シンポジウム
開催日時：2023 年 11 月 06 日～08 日
会場：京都テルサ
特別講演：3 件、一般講演：101 件
2. 第 55 回ストカスティックシステムシンポジウム (SSS' 23)
開催日時：2023 年 11 月 17 日～18 日
会場：東京電機大学
参加者数：60 名、特別講演：1 件、一般講演：45 件

また、以下 1 件のシンポジウムに協賛した。

1. 音声言語シンポジウム
開催日時：2023 年 12 月 2 日～4 日
会場：機械振興会館とオンラインの併催
参加者数：92 名、特別講演：3 件、一般講演：30 件

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter, また、APSIPA Japan Chapter, 騒音制御工学会アクティブコントロール分科会と共催する形で以下の Distinguished Lecturer 招聘講演会 2 件を開催した。

1. DL 講演会 (IEEE Student Branch at Kansai University, APSIPA Japan Chapter, 騒音制御工学会アクティブコントロール分科会との共催)
演 者： Woon-Seng Gan 教授 (Nanyang Technological University)

演 題： Signal Processing and Deep Learning for Practical Active Noise Control

開催日時：2023 年 08 月 25 日

会場：関西大学

出席者数：32 名（うち会員 21 名）

2. DL 講演会 (IEEE SPS Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter と共催)

演 者： Danilo P. Mandic 教授 (Imperial College London, UK)

演 題： Interpretable Convolutional NNs and Graph CNNs: Role of Domain Knowledge

開催日時：2023 年 12 月 27 日

会場：オンライン

出席者数：25 名（うち会員 16 名）

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award、IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award、および IEEE SPS Japan Young Author Best Paper Award を実施し、それぞれ 3 名ずつの受賞者を選定した。

【2024 年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学术交流を図る。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

【2023 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 国際会議（主催） IEEE 12th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2023)

年月日／会場：2023 年 10 月 10 日 - 10 月 13 日／奈良ロイヤルホテル

発表件数：430 件

出席者数：550 名

内容：長谷前 Chair が設立した国際会議。毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で

開催している。GCCE 2023 の Conference Chair は本 Chapter の西村良太 Chair で、運営主体は CT-08 West Japan Chapter で、主たる運営はその会員で行なった。基調講演者として、IEEE の次期会長の Tom Coughlin 博士をお迎えした。

2. 講演会「Tom と昼食会」

年月日／会場：2023 年 10 月 11 日／奈良ロイヤルホテル

出席者数：100 名（会場 60 名、オンライン 40 名）

内容：長谷前 Chair がコーディネータとなり、IEEE 次期会長の Tom Coughlin 博士と昼食を食べながら、IEEE 日本会員との交流会を行った。会場と Zoom オンラインで、IEEE 日本会員と活発な質疑応答が行われた。

3. 国際会議（共催） 2023TRON Symposium

年月日／会場：2023 年 12 月 6 日～12 月 8 日／東京ミッドタウン

出席者数：100 名（IEEE CT Society が共催）

内容：CT Society の共催（Technical Sponsor）により、国際会議 2023TRON Symposium を開催した。同場所で開催の TRONSHOW（6,000 名参加）の一環として開催。長谷前 Chair が Vice-Chair として運営参加。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. チャプター役員会

年月日／会場：2023 年 3 月 7 日／湘南工科大学 出席者数：4 名

2023 年の運営体制に関して打合せを実施した。

2. チャプター役員会

年月日／会場：2023 年 7 月 23 日／奈良ロイヤルホテル 出席者数：3 名

2023 年の GCCE2023 および TRON Symposium の準備に関して打合せを実施した。

3. チャプター役員会

年月日／会場：2023 年 10 月 9 日／奈良ロイヤルホテル 出席者数：6 名

GCCE 2023 の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。

【2024 年活動計画】

1. GCCE 2024:

2024 年 10 月 29 日～11 月 1 日に北九州市にて国際会議 GCCE 2024 を開催する。GCCE 2024 では Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。

2. 2024 TRON Symposium:

12 月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2024 TRON Symposium（CT Society の共催（Technical Sponsor））を開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2023 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. **講演会 (IEEE CSS Kansai Chapter セミナー 2023) (主催)**

演 者：末岡 裕一郎 先生 (大阪大学)

演 題：大規模言語モデルを活用した群ロボットシステム

年月日/会場：2023 年 9 月 19 日 10:00～11:00 / 大阪大学吹田キャンパス, Zoom

発表件数： 1 件

出席者数： 33 名

II. 協賛

1. **第 10 回 制御部門マルチシンポジウム**

年月日/会場：2023 年 3 月 8 日-11 日 / 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

発表件数：240 件

出席者数：477 名

2. **システム制御情報学会・計測自動制御学会 チュートリアル講座 2023**

(主催：システム制御情報学会, 計測自動制御学会)

年月日/会場：2023 年 9 月 4 日 / オンライン

発表件数： 1 件

出席者数： 38 名

3. **The 55th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications** (主催：システム制御情報学会)

年月日/会場：2023 年 11 月 17～18 日 / 東京電機大学

発表件数： 43 件

出席者数： 64 名

4. **第 66 回自動制御連合講演会** (主催：計測自動制御学会(幹事), 日本機械学会, システム制御情報学会, 化学工学会, 精密工学会, 電気学会, 日本航空宇宙学会)

年月日/会場：2023 年 10 月 7, 8 日 / 東北大学 川内キャンパス

発表件数：274 件

出席者数：468 名

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第一回役員会

年月日/会場：2023 年 5 月 17 日 / 京都テルサ 出席者数： 3 名

2. 第二回役員会

年月日／会場：2023年9月19日／オンライン 出席者数：4名

【2024年活動計画】

2024年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

1. 計測自動制御学会 第11回制御部門マルチシンポジウム
2. ISCIE・SICE チュートリアル講座
3. The 56th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
4. 第67回自動制御連合講演会
5. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2023年活動報告】

Technical Meetings

主催/共催

パワーエレクトロニクス学会 第247回定例研究会(4月)(共催)

年月日／会場:2023年4月15日 ダイキン工業(株)本社・Webハイブリッド開催

発表件数:4件

出席者数:76名

パワーエレクトロニクス学会 第248回定例研究会(6月)(共催)

年月日／会場:2023年6月24日 立命館大学・Webハイブリッド開催

発表件数:5件

出席者数:80名

パワーエレクトロニクス学会 第249回定例研究会(7月)(共催)

年月日／会場:2023年7月29日 三重大学・Webハイブリッド開催

発表件数:6件

出席者数:59名

パワーエレクトロニクス学会 第250回定例研究会(10月)(共催)

年月日／会場:2023年10月7日 岡山理科大学・Webハイブリッド開催

発表件数:5件

出席者数:64名

パワーエレクトロニクス学会 第251回定例研究会(12月)(共催)

年月日／会場:2023年12月16日 大阪工業大学・Webハイブリッド開催

発表件数:29件

出席者数:163名

協賛

スマートエネルギーセミナー「ローカル VPP とマイクログリッド ～EV の蓄電池としての活用、V2G、地産地消、電力融通～」

(主催:福岡スマートハウスコンソーシアム／一般社団法人 DELIA／芝浦工業大学／電気学会ローカル VPP を目指す分散エネルギー技術調査専門委員会、協賛:IEEE IES Japan Joint Chapter／パワーエレクトロニクス学会／電気学会産業応用部門 家電・民生技術委員会)

年月日／会場:2023年2月2日 東京ビッグサイト会議棟(610会議室)

発表件数: 11件

出席者数: 39名

電気学会産業応用フォーラム「次世代送配電への潮流を乗り切るローカルVPPビジネス ～脱炭素エネルギー革新とニュービジネスの胎動～」

(主催:電気学会産業応用部門 家電・民生技術委員会、共催:大阪工業大学工学部電気電子システム工学科、協賛:IEEE IES Japan Joint Chapter／パワーエレクトロニクス学会)

年月日／会場:2023年2月24日 大阪工業大学梅田キャンパス 常翔ホール

講演件数: 10件

出席者数: 90名

Non-technical Meetings

2023年 IEEE IES JJC 第1回 幹事会議

年月日／会場:2023年3月3日 Web開催

出席者数: 4名

Chapter 支援費利用事業

IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award (2023年4月15日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して2022年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35歳以下の若手によるもの1件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として Quo カード 1万円分を授与した。

主旨:(B)若手獲得・育成の企画

利用支援費 1万円

内訳:副賞(1万円)／件 × 1件

2023 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して2023年12月に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会における学生・若手技術者によりポスター形式の発表の中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として Quo カード1万円分を授与した。

主旨:(B)若手獲得・育成の企画

利用支援費 1万円

内訳:副賞(1万円)／件 × 2件

【2024年活動計画】

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4月、6月、8月、10月、12月に定例研究会の開催を予定している。

また、以下の表彰を行う計画である。

2024 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12月の研究会は対象から除外する)の満35歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文1件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

2023 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して12月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で30件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

その他、下記セミナーの協賛を計画している。

電気学会産業応用フォーラム「次世代パワエレ家電の進化とV2Xとの連携」

日時 2024年2月16日(金)12:30~17:00

会場 大阪工業大学 梅田キャンパス 常翔ホール

スマートエネルギーセミナー

ローカルVPPとデータサイエンスによるエネルギーパラダイム革新

～次世代マイクログリッド、PV・EV連系、防災強靱化～

日時 2024年2月1日(木)10:00~16:35

会場 東京ビッグサイト 東6主催者事務室

これらの活動については下記のWebサイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2023年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter Lecture (主催)

演者:Dr. Hiroyasu Matsuura (the University of Tokyo, JAPAN)

演題:Theory of Thermoelectric Effect Based on Linear Response Theory

年月日/会場:2023年3月3日 大阪公立大学

出席者数: 15名

2. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture
(主催)

演者:Prof. Hao Zeng (University at Buffalo, the State University of New York, US)

演題:Controlling Spin Properties in 2D Materials and Heterostructures

年月日/会場:2023年6月22日 大阪公立大学

出席者数: 13名

3. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture
(主催)

演者:Dr. Hiroyasu Matsuura (the University of Tokyo, Japan)

演題:Introduction to Basic Notions on Magnetism

年月日/会場:2023年10月17日 大阪公立大学

出席者数: 16名

4. Winter School on Magnetism (主催)

年月日/会場:2023年11月27日-11月29日 愛媛大学

発表件数: 30件

出席者数: 40名

5. MRIS 2023 (共催)

年月日/会場: 2023年12月7日-12月8日 愛媛大学

発表件数: 10件

出席者数: 56名

II. IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会

1. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)

演者:Prof. J. Ping Liu (University of Texas at Arlington, US)

演題:Magnetic Hardening in Low-Dimensional Ferromagnets

年月日/会場:2023年6月29日 大阪公立大学

出席者数: 15名

2. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)

演 者: Prof. Yoichiro Tanaka (Tohoku University, Japan)

演 題: Magnetic Data Storage Technology: From the Invention of Perpendicular
Magnetic Recording to Social Integration

年月日/会場: 2023年12月8日 愛媛大学

出席者数: 25名

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. Chapter chair meeting with overseas chapters' members

年月日/会場: 2023年5月3日 オンライン 出席者数: 10名

1. Chapter Chair Meeting with MSJ Directors

年月日/会場: 2023年9月27日 大阪大学 出席者数: 14名

【2024年活動計画】

2024年は、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に、技術講演会の開催や学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。具体的には、春か秋の適当な時期に基調講演と学生のポスター発表会をメインとする第6回関西四国磁性研究会を開催する。同会では学生に奨励賞を授与する予定である。なお、同会は2021年から順延している。これ以外に、関西・四国地区での研究会の主催を企画する。国内の他MAG chapterとの連携を強化しており、DL講演会の共同開催などを進める。また、各国のchapter間の国際協力活動を継続し、MagSoc virtual chapters meetingを通じて、若手研究者の交流やキャリア支援やDL推薦などを協議する。また、他学協会と研究会などを共催・協賛する予定である。特にIEEEと関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を進める。併せて会員への情報提供のためweb siteの充実を図る。

URL <http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

n. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

【2023年活動報告】

2023年は3回のTechnical meetingを実施。その他、ホームページ開設とメンバー1名がSenior Memberへの格上げ申請を行った。

Technical Meetings

1. 第4回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場: 2023年4月21日/現地 (Cosmos Corp.) + Web のハイブリッド

発表件数: 5件

出席者数:14名(現地7名、Web7名)

2. 第5回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2023年8月18日/現地(三菱電機)+Webのハイブリッド

発表件数:4件

出席者数:14名(現地8名、Web6名)

3. 第6回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2023年12月8日/現地(TOTO)+Webのハイブリッド

発表件数:4件

出席者数:16名(現地5名、Web11名)

【2024年活動計画】

2024年は最低年3回のミーティングの開催とIEEE ISPC 2024(2024年4月30日-5月2日@シカゴ)での現地発表を計画。また、メンバーのSenior upgradeやFellow申請も検討する。

1. 第7回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2024年5月/現地+Webのハイブリッド

2. 第8回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2023年9月/現地+Webのハイブリッド

3. 第9回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2023年12月/現地+Webのハイブリッド

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況（2023年12月末調査時点）

表. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219
2019	1	46	22	24	140	92	1,494	52	291	69	2,231
2020	1	49	21	30	145	98	1,470	45	241	55	2,155
2021	1	49	24	32	159	107	1,427	34	234	67	2,134
2022	1	49	23	34	167	111	1,433	39	238	71	2,166
2023	1	48	19	38	174	119	1,423	43	274	79	2,218

Grade code H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

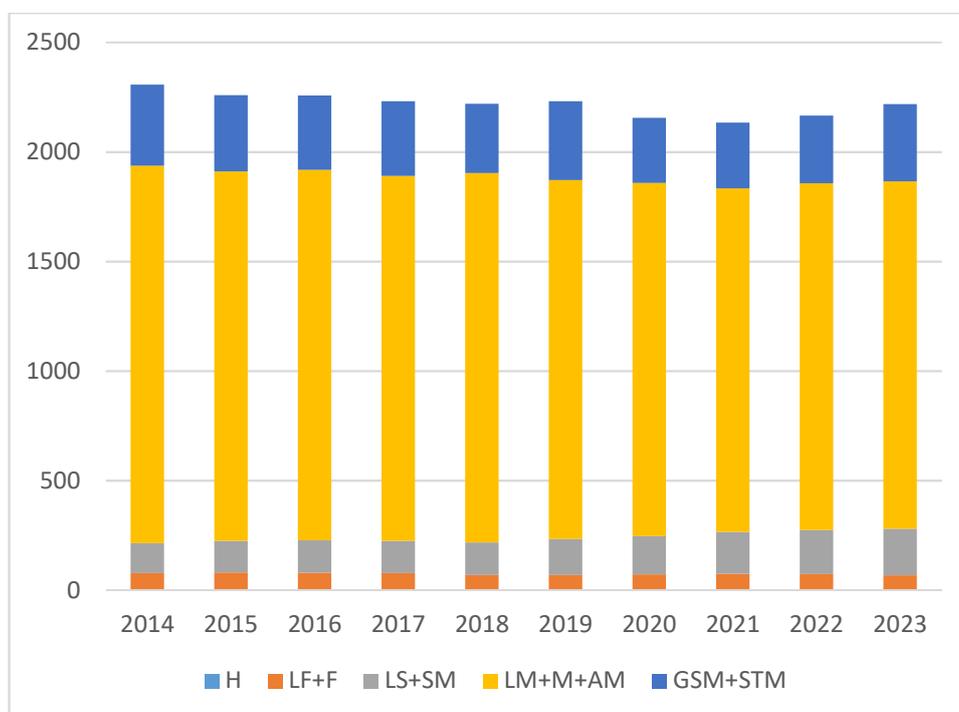


図. 会員区分の推移

2. ソサイエティ別会員数

[2023年12月31日更新]

◎ 幹事Chapter

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	◎	○		○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		○							
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	137	関西単独						◎			
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AP-03	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎					
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					◎				
	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	68	関西Joint						◎	○	○	○
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									◎
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	106	関西単独						◎			
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独							◎		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独								◎	
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	23	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	35	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CT-08	Consumer Technology Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	◎	○				
	Consumer Technology Society West Joint Japan Chapter	2008	25	関西Joint						◎	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	8	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	11	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	82	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	41	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	64	関西Joint	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	6	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	168	関西単独						◎			
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Computer Society Kansai Chapter	2006	323	関西単独						◎			
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独								◎	
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	◎			○	○	○
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					◎				
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	125	関西単独						◎			
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	112	東京Joint	○	○	○	◎	○	○			
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint							○	○	◎
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○			◎	○		○	○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		◎							
	Communications Society Kansai Chapter	2006	176	関西単独						◎			
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	42	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EP-21	Electronics Packaging Society Japan Chapter	1994	46	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	6	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	93	関西単独						◎			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	162	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	11	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	27	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		◎							
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	87	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独								◎	
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	14	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	52	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
MAG-33	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京単独				◎					
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	◎							
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			◎						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					◎				
	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	37	関西Joint						◎	○		
	Fukuok/Hiroshima Joint Sections Magnetics Society Chapter	2018		福岡Joint							○	◎	
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	55	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PEL-35	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	82	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独								◎	
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	62	関西単独						◎			
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独								◎	
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	107	関西単独						◎			
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	23	東京単独				◎					
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					◎				
PSE-43	Product Safety Engineering Society	2021	3	関西Joint					○	◎			
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○

他支部Jointで関西支部会員数が50名を越えるもの

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2023年 会計報告

収入の部	2023年計画		2023年実績	
◆IEEE Enty間勘定	2,616,327	内容	2,402,256	内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,667,932	2022年度実績: \$13,196.05×126.51 JPY/USD - 手数料¥1,500	1,874,029	2023年度実績: \$13,522.20×138.70 JPY/USD - 手数料¥1,500
▲ Chapter Rebate支払	▲ 352,960	2022年度実績: (\$200×1.1)×12+\$75×2=\$2,790×126.51 6/15 全13Chapter分 (内、1Chapterは0) 支払	▲ 386,973	2023年度実績: (\$200×1.1)×11+\$75×2=\$3,010×138.70 全13Chapter分 (内、1Chapterは0) 支払 (30514は次年度払い)
▲ Affinity Group Rebate支払	▲ 74,640	2022年度収入: (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×126.51 6/10 LMA分 37,320円支払 --/-- WIE分 37,320円プール中 11/30 YP分 SBLTW派遣補助4760円,TOWERS副費・派遣補助	▲ 40,917	2023年度収入: (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×138.70 8/13 LMA分 40,917円支払 WIE分 40,917円プール中 YP分 40,917円プール中
・ SB Rebate	111,040	2022年度実績: \$872×129.06 JPY/USD - 手数料¥1,500	168,143	2023年度実績: \$1212×139.97 JPY/USD - 手数料¥1,500
▲ SB Rebate支払	▲ 112,540	6/14 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払	▲ 169,644	9/28 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払
・ Section Rebate 小計	1,238,832	レート換算により数円の誤差あり	1,444,638	
・ Section Assessment	4,526,115	2022年実績: 前期:\$35,680.85*¥126.85=¥4,526,115, 5/20, 後期:未着	4,900,044	2023年実績: 前期:\$34,816.02*¥138.43=¥4,819,581, 6/12 後期:\$579.29*¥141.49-1500=¥80463, 12/14 (換金手数料1,500円)
▲ Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,847,198	2022年実績: 上記の85% (振込手数料含) 前期: 3,847,198円 (内手数料1,830円) 後期:未着	▲ 4,165,037	2023年実績: 前期: 上記の85% (振込手数料含) 4,165,037円
・ Section Assessment小計	678,917	2021年実績: 15%還元残高 前期: 544,535円。後期:	735,007	2023年実績: 15%還元残高
・ LMA Fund	0		0	
・ WIE Fund	54,000	R10 Fund: WIE Symposium \$400 * 135.00 (JPY/USD) (予定)	0	
・ YP Fund	155,250	R10 Fund: \$400, YP Fund: \$750 * 135.00 (JPY/USD) (予定)	0	
・ AG Fund 小計	209,250			
・ Section Incentives	0	2021年まで年間約\$2,000入金実績。2022年から制度廃止で入金0に。	0	
・ TENCON2020余剰金	466,000	<2022年未着> -> 2023年度へ持ち越し: ¥466,000	0	JCへ問合せ、次年度に持ち越し予定。
	0	Senior Member Elevation Nomination Incentive (6/23, \$120)	7,846	Senior Member Elevation Nomination Incentive (4/7, \$60)
	0		0	
・ 銀行利息	23,328	銀行利息 (6/1時点) 23,314円 CB口座利息 (1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11月) 14円 日本口座利息 ¥4 (2/21), ¥10 (8/22)	214,765	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10月11月,12月 UFJ 2月7、8月12
・ その他小計	489,328		222,611	
◆ Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	480,000		341,436	
・ Section支援(YP)	230,000	事後申請 (IEEE TOWERS in Kansai: ¥130,000, Kansai Section MDC-YP-SB交流イベント: ¥100,000)	80,686	社会人と学生の交流会費用JC支援80,686
・ Section支援(EA)	150,000	第1回EAイベント(9/3) Section支援費、総費用¥235,283の半額で ¥117,641 (9/29入金)	110,750	IEEE Kansai Section 第3回 EAイベント(8/19)支援費、総費用 ¥221,501の半額で ¥110,750
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	100,000	2023年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の ¥100,000を相殺の上、¥100,000をJCに支払	150,000	2023年は30個申請、総額¥300,000、Section支援費の¥150,000を総裁の上、¥150,000をJCに支払い
小計	3,096,327		2,743,692	
◆ 前年度からの繰越金	5,442,118	¥口座 ¥986,526.- (2022年会計締め) \$口座 ¥4,455,592.- \$38,642.04- TTB Avg 115.30 (1/1, ¥4,824.231.- TTB Avg 103.00)	5,442,118	¥口座 ¥986,526.- (2022年会計締め) \$口座 ¥4,455,592.- \$38,642.04- TTB Avg 115.30 (1/1, ¥4,824.231.- TTB Avg 103.00)
合計	8,538,445		8,185,810	

支出の部	2023年計画		2023年実績	
◆会合・AWARD・活動	5,895,000	内容	4,091,861	内容
・関西支部活性化費	1,620,000	2022年実績+α相当のイベント開催 150,000 MAW派遣旅費(10月 信越 各AGから1~2名) 60,000 JapanSYWL学生派遣(10月 信越 1名) 300,000 国際・国内イベント 学生-若手派遣(時期場所人数未定) 260,000 IEEE TOWERS(JC支援費、YP Fund含む) 150,000 博士のキャリアを語る会(YP9~10月 R10 Fund含む) 300,000 IEEE関西 Fellow Club(NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC) 300,000 一筋向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月 JC支援費含む)	706,814	YP overleaf 勉強会 4/22(名古屋) 派遣費 67,550 SB Raspberry Pi 勉強会 4/22(名古屋) 派遣費 26,900 SB LaTexセミナー 5/14(等) 派遣費 25,620 11/24SYWL派遣費(長野) 2名29680+37326 札幌支部SB・YPイベントへの派遣費 119566 EAイベント8/19チラシ印刷 2,450 会場費154,691 準備作業弁当代 21,000 備品輸送費 1950 関係者交通費 29300 講師謝礼 12110 12/25第1回FellowClub会場費61638、講師謝礼20000、懇親会10人 33300、領収書紙代383 11/12YP博士のキャリアを語る会会議室使用料54000、派遣費9350
・総会開催費	600,000	2021年計画相当(JCには下の参加費入金分を差引いた金額を報告)： 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×25名=175,000+会場費50,000=225,000 下記懇親会費徴収額を超える100,000を支部が負担	613,597	資料印刷費98,700、会場費148,500、懇親会費360,637 リボン5760
▲懇親会費徴収	▲125,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×25名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大32名：4名×8テーブル)	▲108,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(4,000円×27名)
・25周年記念行事開催費	2,000,000	会場費150,000、資料印刷費、講演謝礼、記念品、懇親会費	1,505,903	講演会会場 267,960 講師謝礼 50,220 招待者交通費 99,114 式次第印刷 1,650 祝賀会会場費 42,372 料理と飲み物 580,465 個人負担分▲140,000(招待者と学生除く28名分) 鏡割り機 110,000 饅頭代 155,432 湯呑 148,060 升 77,000 トートバッグ 113,630
JapanCouncil支援費	▲650,000		▲650,000	JCからの支援金
・講演会開催費(TPC)	150,000	TPCの講演者への謝礼：3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)	60,000	第119回技術講演会、第121回技術講演会
・理事会費	400,000	会場代他(6.5万円×6回予定)	400,441	第一回理事会(弁当45,540、会場22,000) 第三回理事会(弁当56,925、会場22,000) 第四回理事会(弁当45,540、会場22,000) 第五回理事会(弁当45,540、会場22,000) 理事会後の打合せ(JapanOffice来訪) 6402 第六回理事会・忘年会164494(内個人負担▲52000)
・Committee会合費	150,000	2022年計画相当： MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	114,480	IEEE Kansai MDC/SAC/YP Joint workshop 5/8 61,740 第2回MDC&SAC&YP合同会議(11/6) ¥52,740-
・メダル、研究奨励費	470,000	2022年計画と実績を考慮： 200,000 学生研究奨励費(¥20,000 10名)：2023年総会用 賞状代：30000 40,000 YP賞メダル(3個分)：2024年総会用 200,000 JCメダル(20個分)：2024年総会用、JCより半額支援金含む	509,770	学生研究奨励費(100,000)：2023年総会出席者 学生研究奨励費(80,000)：2023年総会欠席者 学生研究奨励費等賞状29770 JCメダル30個分
・Student Branch支援費	390,000	2022年計画相当： 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(1月、10~11月)：昨年度分を1月開催 90,000 アレキストミソコフォット(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)	91,404	9/22北海道SBイベント旅費2名89064 12/22関西支部SB年末交流会派遣2340
・LMAG支援費	160,000	2022年計画相当： 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(香塚依頼) 50,000 東アジアLMAG会議参加費(旅費：香) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含む) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月)	170,731	LMAG第21回現地講演会講師(懇親会、手土産) 7,376 LMAG第22回 IEEE 関西支部 LMAG技術講演会講師謝礼 12010 機材運搬駐 車場代3400 Jcグッズ返送1570 会議室利用料31383 音響設備使用料12000 11/10「人と防災未来センター」現地講演会¥24,250-(入館料 6650円、 講師謝礼 10000円、当日手土産 2600円、講師懇親会参加費5000円) 12/7LMAG第24回技術講演会懇親会費補助13000、会場費25476、リハ含む 駐車場代3600 感謝状ブランク製作(2名分) 36666
・WIE支援費	350,000	2022年実績および10周年記念を考慮：R10 Fund含む WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	383,143	3/7第一回シンポジウム28000 第二回打合せ弁当5,846、印刷代(封筒、ポスター、チラシ) 21,260、ポ スターデザイン50,000、宛名シール代・ポスター/チラシ/郵送・宅配 28,154、第三回弁当7,925、講演者手土産2名12,900、第四回打合せ弁 当・飲料代11,760、講師旅費3名49,792、講師謝金45,000、懇親会費 28,236、10周年記念品代93,940、配信確認イヤホン330
・YP支援費	220,000	SB-YP交流イベント(社会人と学生の交流会)、JC支援費含む	293,578	9/30SB-YPジョイントイベント(会議室62,143、弁当・懇親会95,310) JC支援費含む 2023年度YP活動費補助精算136125
・EA支援費	100,000	新規：EA活動拡大支援費		
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件		
◆事務経費	950,000		11,890	
・外部監査費	0	外部監査不要	0	
・事務用品費	0	ファイル等	330	封筒・のし袋・ゼムクリップ330
・旅費	1,200,000	R10Meeting3/3~3/6ホーチミン：80,000(Air往復200,000、 Hotel25,000×3、Food and beverage20,000×4、Others：10,000×4) x2人他	8,960	総会学生交通費8,960
R10支援費	▲250,000			
・通信費	0	郵送料、宅急便等	2,600	レターバックプラス(メダル送付用) 2,600
◆雑費	30,000		▲555,918	
・取引手数料、他	30,000	2022年計画相当： 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み 他)	▲555,918	振込手数料32945 (うち口座残高証明書770) ▲¥568,260 為替損益(1/1 \$残高\$38642.04、¥4455592.-、TTB Avg 115.30を1/4付TTB 130.01で換算⇒¥5,023,852) ▲¥20,603 ¥口座前年度会計処理分
小計	6,875,000		3,547,833	
◆次年度への繰越金	1,663,445	2024年への繰越金	4,637,977	¥口座 ¥2,766,944-(2023年会計締め) \$口座 ¥1,871,033-\$16,773.39- TTB Avg 111.55
合計	8,538,445		8,185,810	

VII. 2024年 予算

収入の部		2023年実績	2024計画	
◆IEEE Entity間勘定		2,402,256	2,758,491	内容 (2023年実績ベース)
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,874,029	1,874,029	2023年度実績: \$13,522.20×138.70 JPY/USD - 手数料¥1,500	
▲ Chapter Rebate支払	▲ 386,973	▲ 386,973	2023年度実績: (\$200×1.1)×11+\$75×2=\$3,010×138.70 全13Chapter分 (内、1Chapterは0) 支払	
▲ Affinity Group Rebate支払	▲ 40,917	▲ 40,917	2023年度収入: (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×138.70 8/13 LMAG分 40,917円支払 WIE分 40,917円プール中 YP分 40,917円プール中	
・ SB Rebate	168,143	168,143	2023年度実績: \$1212×139.97 JPY/USD - 手数料¥1,500	
▲ SB Rebate支払	▲ 169,644	▲ 169,644	9/28 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払	
・ Section Rebate 小計	1,444,638	1,444,638		
・ Section Assessment 2024	4,900,044	4,900,044	2023年実績: \$34,816.02*¥138.43=¥4,819,581, 6/12	
▲ Japan Council拠出金+手数料	▲ 4,165,037	▲ 4,165,037	2023年実績: 上記の85% (振込手数料含) 4,096,644円 (換金手数料1,500円、振込手数料330円含む)	
・ Section Assessment小計	735,007	735,007	2023年実績: 15%還元残高 544,535円	
・ LMAG Fund	0	0		
・ WIE Fund	0	0		
・ YP Fund	0	0		
・ AG Fund 小計	0	0		
・ Section Incentives	0	0		
・ TENCON2020余剰金	0	466,000	<2023年未着> -> 2024年度へ持ち越し: ¥466,000	
	7,846	7,846	Senior Member Elevation Nomination Incentive (\$60)	
・ 銀行利息	214,765	105,000	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10月,11月,12月 UFJ 2月7、8月12	
・ その他小計	222,611	578,846		
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	341,436	291,000		
・ Section支援(YP)	80,686	80,000	YPイベント支援費	
・ Section支援(EA)	110,750	111,000	IEEE Kansai Section EAイベント支援費	
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	150,000	100,000	2024年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の ¥100,000を総裁の上、¥100,000をJCに支払い	
小計	2,743,692	3,049,491	TENCON2020余剰金 (466000) は特例	
◆前年度からの繰越金	5,442,118	4,637,977	¥口座 ¥2,766,944.- (2023年会計締め) \$口座 ¥1,871,033.- \$16,773.39- TTB Avg 111.55	
合計	8,185,810	7,687,467		

支出の部	2023年計画		2024年計画	
◆会費・AWARD・活動	5,895,000	内容	4,540,050	内容
・関西支部活性化費	1,620,000	2022年実績+α相当のイベント開催 150,000 MAW派遣旅費(10月 信越 各AGから1~2名) 60,000 JapanSYWL学生派遣(10月 信越 1名) 300,000 国際・国内イベント 学生・若手派遣(時期場所人数未定) 260,000 IEEE TOWERS(JC支援費、YP Fund含む) 150,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月 R10 Fund含む) 300,000 IEEE関西 Fellow Club(NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC) 300,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月 JC支援費含む)	1,700,000	2023年実績相当+R10東京イベント 600,000 R10東京イベント学生等派遣費(13名3泊4日) 60,000 JapanSYWL(Student Branch, Young Professionals, Women in Engineering, Life Member Affinity Group)学生派遣(8月2名) 280,000 若手ワークショップ(YP 9~10月、JC支援費含む) 160,000 社会人と学生の交流会(YP 7月~8月) 300,000 IEEE関西 Fellow Club(NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC) 200,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA9月JC支援費含む)
・総会開催費	600,000	2021年計画相当(JCには下の参加費入金を差引いた金額を報告)： 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×25名=175,000+会場費50,000=225,000 下記懇親会費徴収額を超える100,000を支部が負担	660,000	2023年計画と実績を考慮(JCには下の参加費入金を差引いた金額を報告)： 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、9,000コース×35名=315,000+会場費50,000=365,000 下記懇親会費徴収額を超える215,000を支部が負担
▲懇親会費徴収	▲125,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×25名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大32名；4名×8テーブル)	▲150,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×30名想定) 学生は全額支部負担も想定
・25周年記念行事開催費	2,000,000	会場費150,000、資料印刷費、講演謝礼、記念品、懇会費		
JapanCouncil支援費	▲650,000			
・講演会開催費(TPC)	150,000	TPCの講演者への謝礼：3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)	150,000	2023年計画相当： TPCの講演者への謝礼：3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)
・理事会費	400,000	会場代他(6.5万円×6回予定)	408,000	2023年計画と実績を考慮 会場代他(6.8万円×6回予定)
・Committee会費	150,000	2022年計画相当： MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	150,000	2023年計画相当： MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議
・メダル、研究奨励賞	470,000	2022年計画と実績を考慮： 200,000 学生研究奨励賞(¥20,000 10名)；2023年総会用 賞状代：30000 40,000 YP賞メダル(3個分)；2023年総会用 200,000 JCメダル(20個分)；2024年総会用、JCより半額支援金含む	482,050	2023年計画と実績を考慮： 200,000 学生研究奨励賞(¥20,000 10名)；2024年総会用 賞状代：30000 52,050 YP賞メダル(3個分)；2024年総会用 200,000 JCメダル(20個分)；2025年総会用(在庫含む)、JCより半額支援金含む
・Student Branch支援費	390,000	2022年計画相当： 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(1月、10~11月)；昨年度分を1月開催 90,000 アレイトミーティング(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)	100,000	2023年実績相当： SB Chairミーティング 研究交流会 英語プレゼン大会 アレイトミーティング 年末交流会(12月)等
・LMAG支援費	160,000	2022年計画相当： 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(春頃依頼) 50,000 東京LMAG会議参加費(旅費：春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月)	200,000	2023年計画相当+ハイブリッド会議費用： 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(春頃依頼) 50,000 東京LMAG会議参加費(旅費：春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月) 40000 ハイブリッド会議費
・WIE支援費	350,000	2022年実績および10周年記念を考慮：R10 Fund含む WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	350,000	2023年実績および10周年記念を考慮：R10 Fund含む WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)
・YP支援費	220,000	SB-YP交流イベント(社会人と学生の交流会)、JC支援費含む	330,000	10周年記念イベント+博士のキャリアを語る会、Overleaf勉強会(支部外YPと合同開催)
・EA支援費	100,000	新規：EA活動拡大支援費	100,000	EA活動拡大支援費
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件	60,000	30,000×2件
◆事務経費	950,000		600,000	
・外部監査費	0	外部監査不要	0	外部監査不要
・事務用品費	0	ファイル等	0	ファイル等
・旅費	1,200,000	R10Meeting3/3~3/6ホーチミン：80,000(Air往復200,000、Hotel25,000x3、Food and beverage20,000x4、Others：10,000x4) x2人他	600,000	R10Meeting3/2~3/3Kuala Lumpur：400,000(Air往復200,000、Hotel25,000x3、Food and beverage20,000x4、Others：10,000x4) x1人他
R10支援費	▲250,000			
・通信費	0	郵送費、宅急便等	0	郵送費、宅急便等
◆雑費	30,000		30,000	
・取引手数料、他	30,000	2022年計画相当： 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	30,000	2023年計画相当： 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)
小計	6,875,000		5,170,050	
◆次年度への繰越金	1,663,445	2024年への繰越金	2,517,417	2025年への繰越金
合計	8,538,445		7,687,467	

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (3名)

豊岡 祥太	関西大学
清水 悠生	立命館大学
北川 冬弥	エンジウェイ株式会社

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (10名)

道川 稜平	京都大学
中村 洋平	京都大学
北澤 太基	奈良先端科学技術大学院大学
関 勇弥	大阪公立大学
池田 聡成	京都大学
Quan Cheng	京都大学
Wang Jue	大阪大学
田原 熙昂	奈良先端科学技術大学院大学
大島 國弘	京都大学
市倉 ひなの	大阪大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (新 Senior member) (17名)

安藤 友一	(株) リコー
Bermundo Juan Paolo	奈良先端科学技術大学院大学
周 慧珍	合同会社 DX Unit
Cusick James	IT Consultant & Resercher
藤本 大介	奈良先端科学技術大学院大学
原田 博司	京都大学
笠原 正治	奈良先端科学技術大学院大学
孟 林	立命館大学
大崎 美穂	同志社大学
小野 輝男	京都大学
奥 良彰	ローム株式会社
佐藤 孝雄	兵庫県立大学
佐藤 丈博	京都大学
塩見 準	大阪大学

竹井 邦晴
梅田 英和
王 忠奎

北海道大学
パナソニック株式会社
立命館大学

IEEE 関西支部 新 Fellow

(2名)

村田 忠彦
浦岡 行治

大阪大学
奈良先端科学技術大学院大学

(敬称略)

以降、参考情報

I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section,

shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

IEEE Japan Council メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE Japan Council メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
2. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
3. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は関西支部が IEEE Japan Council メダルを Japan Council から購入した最新の購入単価とする。

4. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
5. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
6. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規定は、施行/改定承認日から適用する。

また、本規定の施行と同時に、IEEE 関西支部メダル授与規定(2017 年 1 月 1 日改定)を撤廃する。

2022 年 2 月 22 日施行

年 月 日改定

年 月 日改定

IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
 - ① 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
 - ② 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

3. 補てん可能な内容について

① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
 - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
 - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

- ① 1事業の支援額の上限は3万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保証するものではない。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SBより、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee (SAC) に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② SACは、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SBからの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SBに承認の可否を連絡する。
- ④ SBは会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及びSBのホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書のPDFを関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。
なお、活動報告のレポートには、
 - ・開催日時、場所
 - ・参加人数および可能であれば、IEEE会員の参加人数
 - ・イベントの規模がわかる写真
 - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。
SBのホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB口座に所定の金額を振り込む。

3. 支援内容について

SBの活動に対し、

- ① IEEE会合に付随して開催されること。
- ② IEEE本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SBのホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について
以下の要件を満たす場合に、費用の1/2もしくは、2,000円(税抜)/人の低い額を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事会役員とする。

2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事会役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

参考

By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.

※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない

2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.

4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.

5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

(参考) 関西支部各チャプターにおける国際会議 Sponsorship の承認手続きについては、以下の JC COC の手続きに従うこととする。

国際会議 Sponsorship の承認手続きについて

2018年12月18日

2019年02月14日 改訂

2019年10月31日 改訂

2021年6月18日 改訂

2022年3月10日 改訂

Japan Council Chapter Operations Committee

Tokyo Section Chapter Operations Committee

1. Chapter が関わる Sponsorship の承認手順

(0) IEEE 側の担当者 (Chapter 等) は、共催/協賛の承認手続きに先だち次を済ませておく。

- ・ 営利団体への共催、協賛は、原則、行わない、ことの確認

IEEE Policy 10.1.2 項参照

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

- ・ 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認
- ・ Organizational Unit (OU)間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定
- ・ 関係する OU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成
- ・ <注意> MOU 締結申請をした際には、MOU 申請者は支部の 3 役(Chair, VC, Secretary)

に連絡すること

【参考】 IEEE における Sponsorship の定義について

Types of Sponsors 詳細は以下参照

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>

国内での協賛（後援）は IEEE では以下に該当する。

Non-Sponsor Support（WEB などに情報を掲載する場合は細かい種別は掲載せず、「Non-Sponsor Support」という用語を利用頂く。）

Non-Sponsor Support は以下を含む：

-
- ・Partners
 - ・Contributors
 - ・Patrons
 - ・Supporters
 - ・Publicity
 - ・Keynotes
 - ・Exhibitors
-

国際会議の場合、Conference application には Non-Sponsor Support の記載欄が無い場合、協賛（後援）の場合は、団体名は記載しないよう注意する。

- (1) 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録後、IEEE MCE より、該当する OU (Section) Officer に承認依頼が届くので、Section Secretary は、Section 事務局に送付し採番(#1)を依頼し、事務局は Section COC (Chair)に検討依頼を行う。
#1 事務局通し番号、会議名、MOU 記載の会議番号、TCS/FCS の識別、関連 Chapter、関連支部、IEEE MCE からの送付日、審議期間、審議状況等を記録する。

- (2) Section COC(Chair)は該当する Chapter に対して、確認、審議を行う。
複数の Section の Chapter からなる Joint Chapter が該当する場合、または、その依頼の場合には、Main Section だけでなく Joint のすべての Section の Chair, Secretary (#2), (当該 Section に存在する場合)COC とも期限を定めて審議を行う。
協議時間は、1 週間を目安としながら、案件ごとに Section の COC (Chair)が設定する。
#2 Main Section 以外の Section の Chair, Secretary は、審議結果を依頼元の Section COC (Chair)に電子メールにて報告する。この際に、本部 web での結果登録を行っては「ならない」。

審議においては、Section COC(Chair)は以下を行う。

- ① TCS の場合は、TCS-Fee の負担組織を確認する。TCS-Fee は、Conference の主催者、Chapter/Section、その両者の分担の 3 つのケースがある。あらかじめ設定した期限までに Section から非承認回答がなければ、承認として処理する。

* IEEE の Technical Co-Sponsorship Fee (TCS-Fee) が 2019 年 1 月 1 日より導入され、IEEE Geo Unit と TCS を締結している国際会議は 1,450 ドルに加え、IEEE Xplore 掲載費として 22 ドル/Paper の費用負担を行う。なお、Xplore に掲載しない場合でも、定額 1,450 ドルを負担する。

【参考】 MGA Operations Manual: 10.4Conference involvement, C-2 TCS Fee

https://mga.ieee.org/images/files/MGA_Operations_Manual_2021.3.30_FINAL.pdf

- ② FCS の場合は、支部負担がないことを担保するため、次のことを確認する。
- ・ 「関係 Section は一切の金銭負担は負わないこと」を Chapter に伝えるとともに、
 - ・ 「会議が最悪ケースでも赤字予算にならないこと」を確認し、Section の確認に移ることとする。
 - ・ FCS については、関係全 Section からの承認回答を以て承認とする。

(3) Section Secretary は、COC の答申結果に基づき、次の処理を行う。

- ・ TCS の場合は、Section Secretary が承認(web)して、後日、Section 理事会で報告する。
- ・ FCS の場合は、Section の理事会でメール審議を行い、承認後に Section Secretary が承認(web)を行う。

(4) 費用負担が発生する場合の注意点

- ・ Chapter/Section が費用負担を行う場合（負担率(%)が0でない場合）、負担分の収支の確認のため予算案を同時に Chapter から提出いただく。
- ・ 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録を行う前に、事前に Chapter/Section に費用負担の承認を求める場合がある。その場合も同様に、上記の手続きにより対応する。承認を得たのち、正式に web 登録してもらう。

【参考】 IEEE Policy 10.1.4 項

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

2. Chapter が関係しない Section や Japan Council での Sponsorship の承認手順

国内学会等からの Section (Japan Council) 宛の協賛依頼については、Section(Japan Council)理事会のメール審議などで協賛の可否を審議し、承認後に依頼元へ事務局から回答する。Japan Council では協賛対応は行うが、Technical Co-Sponsorship については、会議において Technical な部分でのサポートが求められるため、原則対応せず、関連分野の Chapter での対応を推奨する。

*日本国内での協賛、後援について、ホームページや各種媒体への名義掲載に際し、英語表記の場合、該当する IEEE での用語利用に注意頂く。(【参考】 Sponsorship の定義についてを参照)

協賛（後援、協力）については、Co-Sponsorship, Technical Co-Sponsorship には該当せず、Non-Sponsor Support のカテゴリーでの対応をお願いする。

用語の利用について、日本国内での協賛イベント（研究会、講演会など）も IEEE Policy の国際会議のガイドラインに準拠した対応とする。

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>
<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf#page=76>

3. MOU を必要としない Chapter での Sponsorship 処理について

以下の場合、MOU を必要としない。

この場合 Chapter 内で可否を審議判断し、所属 Section 等には結果の報告を行う。

- (1) 会議の財政規模（収入または支出の多い方）が 25,000USD を超過する会議において、当該 Chapter の担当内容が、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)、物品貸与を伴わない場合)

- (2) 会議の財政規模が 25,000USD 以下の会議において、当該 Chapter の担当内容が、物品貸与、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)を伴わない場合)

#3 運営収支が支出過剰になった場合に財政負担を行うような責任

#4 運営資金の一部または全部を支出するまたは物品を供出する責任

※ 注意点

- ・いずれの場合にも、営利団体への共催、協賛等は、原則、行わない。
- ・役務や責任に対する認識相違を防止するため、依頼元からは IEEE 側の役務や責任を明記した依頼状を受領することとし、協賛等の可否判断の審議に供することとする。
- ・上記の諸条件で規定できない何等かの責任を負う場合には、責任の内容によっては MOU を締結することが好ましい場合がある。判断に迷う場合には、支部、或いは JC-COC に問い合わせる
- ・Logo の使用に当たっては IEEE Policy 6.3.2 項、10.1.17 項、12.1 項に準拠のこと

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

【参考】 MOU の要否判断例

-----JC COC 提案の更新版-----

【参考】 MOU の要否判断例

運営責任その他の提供役務の有無に応じて下表のようにケース 1～4 を定義する。

「共催」、「協賛」等の用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断する。

ケース\提供役務	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」 「共催」相当)	有	有	有	有	有	有	有
ケース 2 (多くの場合「協賛」相当)				有	有	有	有
ケース 3 (多くの場合「協力」相当)					有	有	有
ケース 4 (多くの場合「後援」相当)						有	有

ケース 3、4 では MOU 不要と判断する。

特に、財政規模が 25,000USD 以下の会議ではケース 2 も MOU 不要と判断する。

(A) 財政規模が 25,000USD を超過する会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

(B) 財政規模が 25,000USD 以下の会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 3、4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断
以上

2024 年 IEEE 関西支部連絡先
〒554-0024 大阪市此花区島屋 1 - 1 - 3
住友電気工業株式会社 研究開発本部 研究企画業務部内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>